

ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7

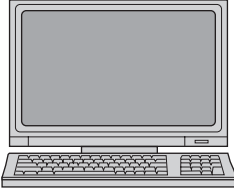
WFT-E7は、世界各地の電波に関する法律に準拠するため、使用可能な地域別に5種類のWFT-E7（A/B/C/D/Eタイプ）を販売しています（別紙参照）。本文中の製品名称では、A/B/C/D/Eタイプを付けずに、単に「WFT-E7」として説明しています。



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7は、無線LAN、有線LAN機能とカメラ間時刻同期機能、市販のGPS機器とのBluetooth接続機能を備えたEOSカメラ用アクセサリで、下記のことを行うことができます。

無線LAN、有線LAN機能



FTP転送

FTPサーバーへの画像転送



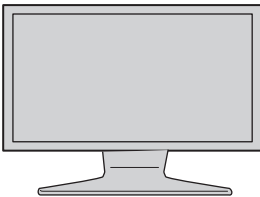
EOS Utility

EOS Utilityでリモート撮影と画像の閲覧/取り込み



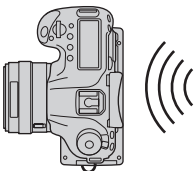
WFTサーバー

Webブラウザでリモート撮影と画像の閲覧/取り込み



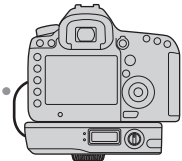
メディアサーバー

DLNA対応テレビなどで画像を閲覧

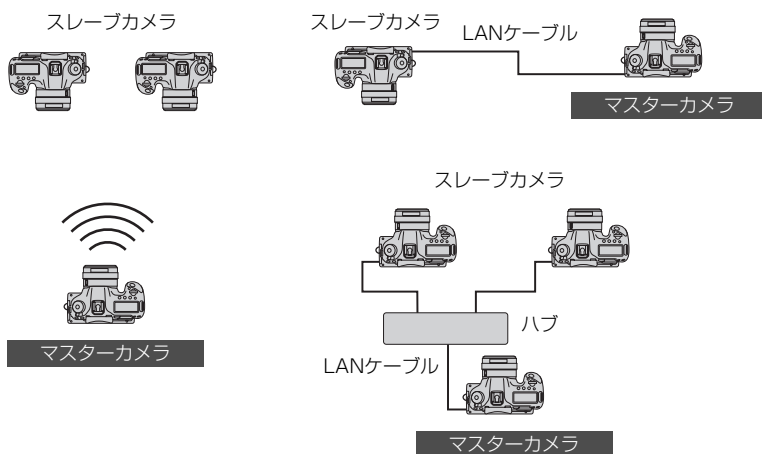


連動撮影

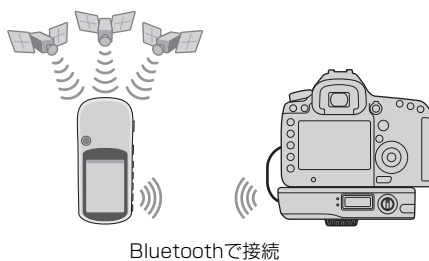
マスターカメラに連動させて、スレーブカメラを無線でリリース



無線と有線によるカメラ間時刻同期機能



市販のGPS機器とのBluetooth接続機能



撮影場所の「緯度、経度、標高、日付時刻」などの情報を画像に付加

本使用説明書上のおことわり

- 本書は、無線LAN、または有線LANと、FTPサーバーに関する設定が完了していることを前提に説明を行っています。これらの設定方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。
- 本文中の [] 内の語句は、パソコン画面上に表示されるボタン名称や、アイコン名称などを示しています。また、カメラのメニューに表示される内容を示しています。
- カメラのイラストや画面例は、主にEOS 5D Mark IIIのものを例として使用しています。お使いのカメラによっては、表示される画面が一部異なることがあります。
- 本文中の (p.**) の**は、参照ページを示しています。
- カメラの操作については、カメラの使用説明書をお読みになり、操作方法を理解していることを前提に説明しています。
- 本文中の以下のマークの付いた欄は、それぞれ次のような内容について説明しています。



使用の際に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。

- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標または登録商標です。
- Macintoshは、米国および他の国で登録された米国アップル社の商標です。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED、WPA、WPA2とWi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- UPnPは、UPnP Implementers Corporationの商標です。
- BluetoothおよびBluetoothロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有している商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

本機で画像転送やリモート撮影、画像の閲覧などを行うためには、無線LAN、有線LANとFTPサーバーの設定方法に関する十分な知識が必要です。

無線LAN、有線LANとFTPサーバーの設定方法に対して、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。

本機を使用するために、FTPサーバーを含むネットワークに対して、誤った設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しましても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

章目次

	はじめに	2	■
1	ネットワークの基本設定	17	■
2	FTPサーバーへの画像転送	31	■
3	EOS Utilityでリモート撮影	47	■
4	WFTサーバーでリモート撮影	53	■
5	メディアサーバーにする	65	■
6	連動撮影する	69	■
7	設定内容の確認／変更／保存／読み込み	83	■
8	カメラ間時刻同期	89	■
9	Bluetooth対応のGPS機器を使う	93	■
10	トラブルシューティング	97	■
11	資料	113	■

目次

はじめに	
本使用説明書上のおことわり	4
章目次	5
目次	6
安全上のご注意	8
各部の名称	9
電池を入れる／取り出す	11
家庭用電源を使用する	13
カメラに接続する	14
ここからの説明について	16
1 ネットワークの基本設定 17	
事前準備	18
接続ウィザードを表示する	19
通信方法と LAN の種類を選ぶ	20
ウィザードで接続する	23
WPS (PBC 方式) で接続する	25
WPS (PIN 方式) で接続する	26
ネットワークを設定する	27
2 FTP サーバーへの画像転送 31	
FTP 転送の通信設定を行う	32
撮影時に自動転送する	34
1 枚ずつ転送する	37
まとめて転送する	40
転送履歴を確認する	45
3 EOS Utility でリモート撮影 47	
EOS Utility の通信設定を行う	48
EOS Utility を使う	51
4 WFT サーバーでリモート撮影 53	
WFT サーバーの通信設定を行う	54
WFT サーバーを表示する	56
画像を閲覧する	57
リモート撮影する [詳細撮影]	59
リモート撮影する [簡易撮影]	62
リモート撮影する	63
連動撮影との連携	64
5 メディアサーバーにする 65	
メディアサーバーの通信設定を行う	66
撮影した画像をテレビに映す	67

6	連動撮影する	69
	スレーブカメラの準備.....	70
	簡単な連動撮影.....	71
	スレーブカメラを配置する.....	72
	WFT サーバーとの連携.....	74
7	設定内容の確認／変更／保存／読み込み	83
	設定内容を確認する.....	84
	設定内容を変更する.....	85
	設定内容の保存と読み込み.....	87
8	カメラ間時刻同期	89
	時刻同期の準備.....	90
	時刻を同期させる.....	91
9	Bluetooth 対応の GPS 機器を使う	93
	GPS 機器を Bluetooth で接続する.....	94
10	トラブルシューティング	97
	エラー表示の対応.....	98
	無線 LAN での注意事項.....	111
	ネットワークの設定を確認する.....	112
11	資料	113
	キャプションの作成と登録.....	114
	ブラケット（別売）を使う.....	115
	主な仕様.....	116
	索引.....	118

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

また、使用する電池と充電器、およびACアダプターキットの使用説明書に記載されている、安全上の注意に関する内容もよく理解した上でお使いください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- 飛行機内・病院で使用の際は、航空会社・病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもりケースが変化し、火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

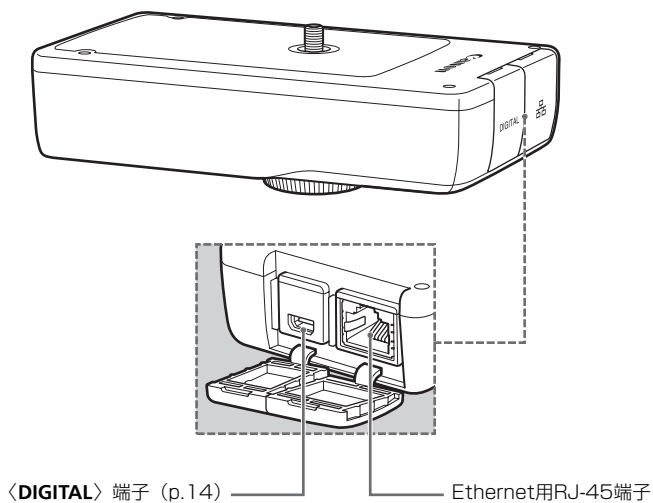
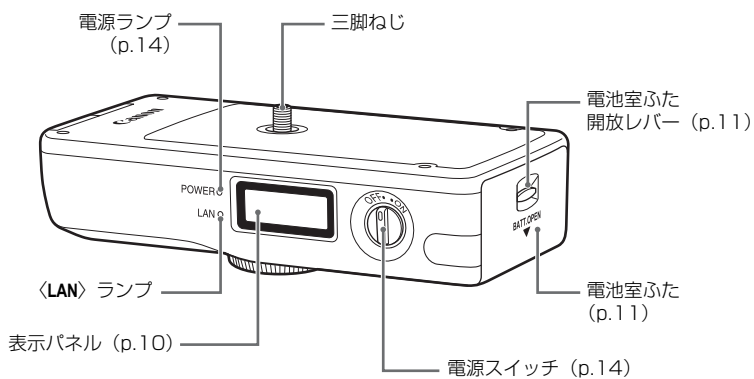
故障・不具合・破損の際は、お求めになった販売店、または最寄りの修理受付窓口にご相談ください。

取り扱い上のご注意

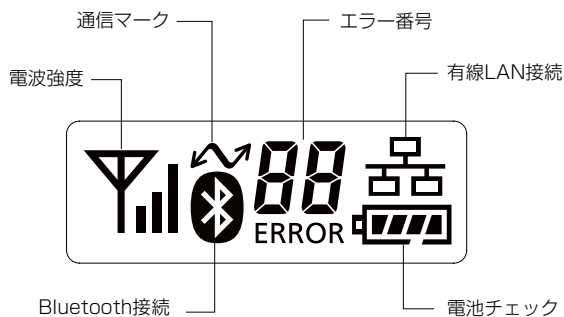
- 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- 本製品は防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- 本製品を磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。本製品の故障の原因となることがありますので、このような場所に本製品を放置しないでください。
- 本製品は有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- 本製品の保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

各部の名称

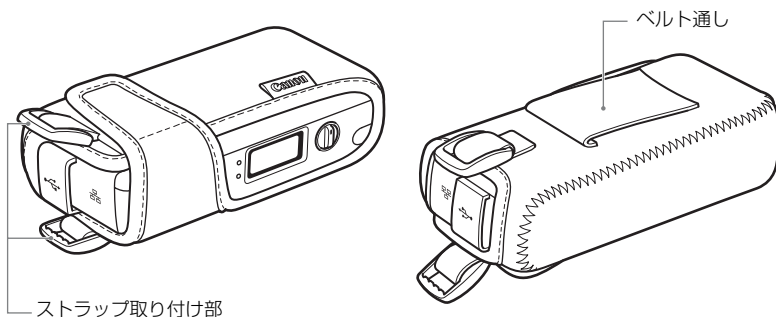
(p.**)の**部は参照ページを示しています。



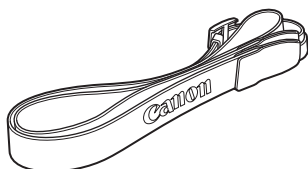
表示パネル



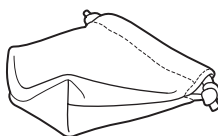
ケース



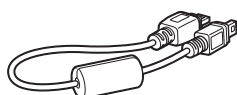
ケース用ストラップ



三脚ねじ収納ケース



インターフェースケーブル



約25cm



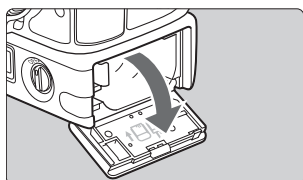
約1.5m

電池を入れる／取り出す

WFT-E7の電源として、バッテリーパックLP-E6を1個使用します。WFT-E7の電池を交換するときは、WFT-E7の電池室ふたを開ける前に必ずWFT-E7の電源スイッチを〈OFF〉にしてください。

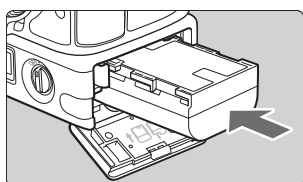
なお、WFT-E7用の電池と充電器は付属していませんので、お持ちでないときは、別途お買い求めください。

入れ方



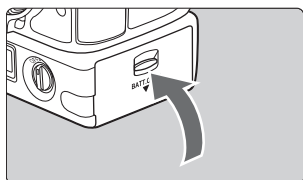
1 ふたを開ける

- レバーを押し下げて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 ふたを閉める


- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

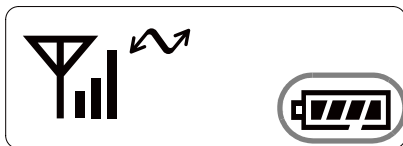








Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRC のホームページをご参照ください。
ホームページ： <http://www.jbrc.com>
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

電池チェックについて

電池の残量は、WFT-E7の電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。電池マークが点滅（）したら、もうすぐ電池切れになります。



表示						
残量 (%)	100～70	69～50	49～20	19～10	9～1	0

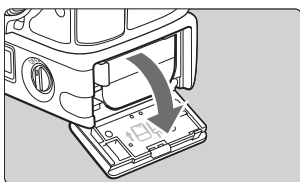
転送可能枚数の目安

約 [枚]

LAN	常温 (23℃)	低温 (0℃)
無線LAN	2400	2300
有線LAN	2200	2200

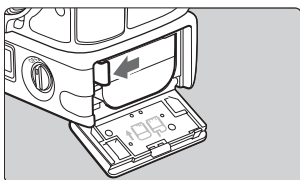
- フル充電のLPE-E6使用時。常温 (23℃)、低温 (0℃) とも転送可能枚数は、ほぼ同じです。
- CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準に準じた条件で、約 5MB の画像を撮影時自動転送した場合。
- 無線LANで連続して画像転送を行うと、転送可能枚数が少なくなります。

取り出し方



1 ふたを開ける

- レバーを押し下げて、ふたを開きます。

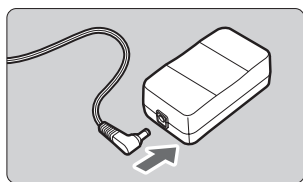


2 電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押し、ロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

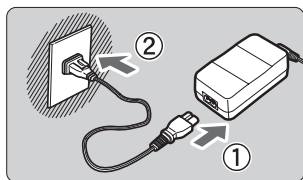
家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-E6（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにWFT-E7を使うことができます。



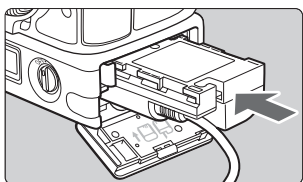
1 DCケーブルのプラグを接続する

- DCケーブルのプラグを、ACアダプターのソケットに接続します。



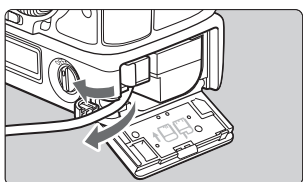
2 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- プラグをコンセントに差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。



3 DCケーブルを入れる

- ふたを開け、DCケーブルをロック位置までしっかりと入れます。



4 ふたを閉める

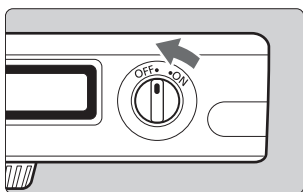
- DCケーブルコード通し部のキャップを開きながらコードを溝に通し、ふたを閉じます。



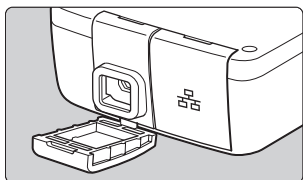
- WFT-E7の電源スイッチを〈ON〉にしたままで、電源コードの抜き差しを行わないでください。
- WFT-E7とカメラそれぞれにACアダプターキットACK-E6を接続して、同時に使用しないでください。周辺の電子機器に影響を及ぼす可能性があります。詳しくは、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

カメラに接続する

カメラとWFT-E7の接続には、必ずWFT-E7に付属しているインターフェースケーブルをお使いください。

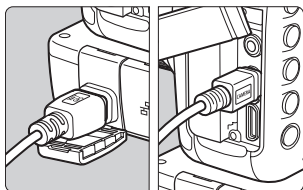


1 WFT-E7とカメラの電源スイッチを〈OFF〉にする



2 WFT-E7の〈DIGITAL〉端子にキャップを取り付ける

- ケーブルの抜け防止用キャップをWFT-E7に取り付けます。



3 WFT-E7とカメラを接続する


- ケーブルの端子に〈WFT GPS〉と刻印された方を、WFT-E7の〈DIGITAL〉端子に差し込みます。
- ケーブルの端子に〈CAMERA〉と刻印された方を、カメラの〈DIGITAL〉端子に差し込みます。


4 WFT-E7とカメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- ➔ WFT-E7の〈POWER〉ランプが点灯し、WFT-E7の表示パネルに〈▶〉が表示されます。

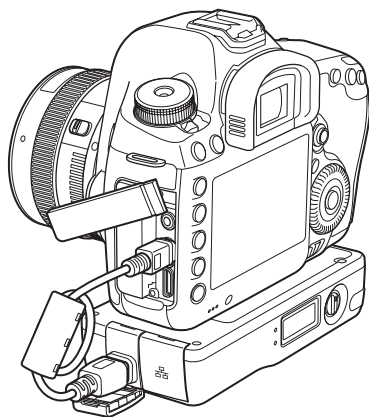
付属のインターフェースケーブルについて

- 長さ約25cmのケーブルは、WFT-E7をカメラの三脚ねじ穴やブラケットAB-E1（別売 p.115）に取り付けるときに使用します。
- 長さ約1.5mのケーブルは、WFT-E7を付属のケースに収納して肩から掛けたり、ズボンのベルトに取り付けるときに使用します。

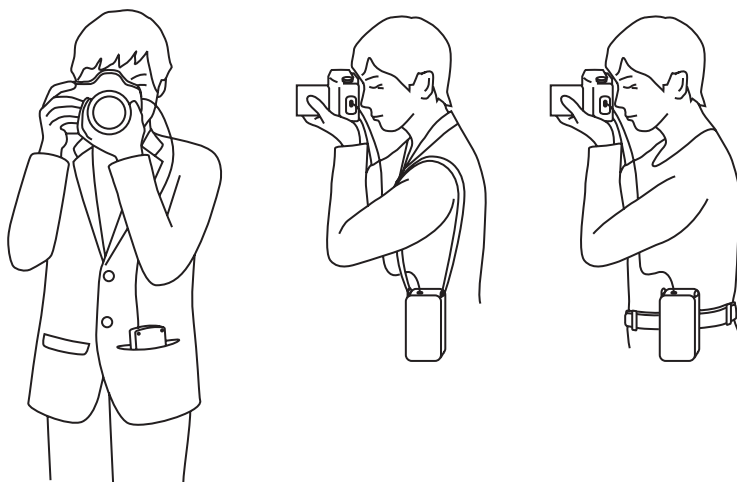
 ケーブルは、WFT-E7とカメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから抜いてください。


 WFT-E7の〈POWER〉ランプが点滅する場合は、WFT-E7とカメラが正しく接続されていません。WFT-E7とカメラの接続を確認してください。

取り付け例



ケースとストラップの使用例



 ライブビュー撮影や動画撮影時に、WFT-E7の電源ON/OFFや接続ケーブルの抜き差しをすると、ライブビュー撮影と動画撮影が終了します。

ここからの説明について

下記のタイトルをクリックして該当ページを参照してください。

1章 ネットワークの基本設定 (p.17)

2章 FTPサーバーへの画像転送 (p.31)

3章 EOS Utilityでリモート撮影 (p.47)

4章 WFTサーバーでリモート撮影 (p.53)

5章 メディアサーバーにする (p.65)

6章 連動撮影する (p.69)

7章 設定内容の確認/変更/保存/読み込み (p.83)

8章 カメラ間時刻同期 (p.89)

9章 Bluetooth対応のGPS機器を使う (p.93)

1

ネットワークの基本設定

カメラのメニュー画面に表示されるWFT-E7用接続操作ガイドを使用して、ネットワークの基本設定を行います。

事前準備

[FTP転送]、[EOSUtility]、[WFTserver]

接続操作ガイドでは、すでに構築されている無線LAN、有線LANのネットワークにWFT-E7を接続する操作を行います。

無線LANに接続する場合は、無線LAN端末（無線LANアクセスポイント、または無線LANアダプター）とパソコンをあらかじめ用意し、WFT-E7が無線LANで接続できる状態にしておいてください。ネットワークの基本設定を行うときは、WFT-E7と無線LAN端末との距離を3m以内にしておいてください。

有線LANで接続する場合は、WFT-E7とパソコンをLANケーブルで接続し、WFT-E7が有線LANで接続できる状態にしておいてください。

動画の無線LAN転送について

動画は1ファイルあたりの容量が大きく、無線LANでは大容量ファイルの転送に時間がかかります。111ページの記載内容を参考にして、無線LAN端末との通信が安定して行える環境を構築しておいてください。

[MediaServ.]（メディアサーバー）

DLNA* 対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーを用意し、WFT-E7を接続するだけで使用できる状態にしておいてください。

*Digital Living Network Allianceの略

[連動撮影]

本機を装着したカメラのほかに、WFTシリーズを装着して連動撮影ができるカメラを用意しておいてください。

接続ウィザードを表示する

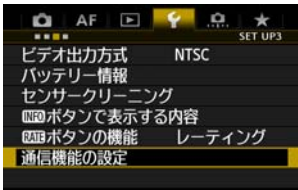
この項では、接続操作ガイドの流れに沿って説明します。途中、エラーが表示されたときは、10章の「トラブルシューティング」(p.97)を参照して、設定内容を見直してください。

- 接続操作ガイドでの設定中にシャッターボタンなどを押すと、接続操作ガイドが終了しますので、設定が終わるまでシャッターボタンなどを押さないよう注意してください。
- メニューの【オートパワーオフ】は、[切]に設定してください。オートパワーオフ機能が働くと、接続操作ガイドが途中で終了します。

1 カメラとWFT-E7の電源スイッチを〈ON〉にする

2 WFT-E7のメニューを表示する

- カメラの〈MENU〉ボタンを押します。
- メニューの【通信機能の設定】を選び〈SET〉を押します。

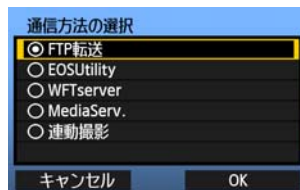
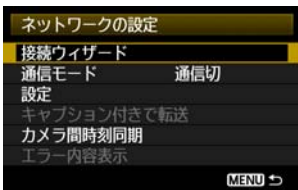


3 【ネットワークの設定】を選ぶ



4 【接続ウィザード】を選ぶ

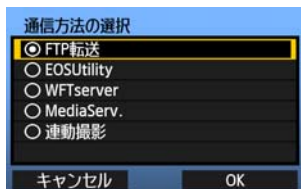
→ 【通信方法の選択】画面が表示されます。



→ WFT-E7の〈LAN〉ランプが点滅します。

通信方法とLANの種類を選ぶ

通信方法を選ぶ



- <⊙> を回して通信方法を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選び <SET> を押すと次の画面に進みます。

●FTP転送

撮影した画像をFTPサーバーに転送するときを選びます。
撮影時に自動転送できるほか、撮影後に画像を選択して転送することもできます。

使用できるパソコンのOSについて

[FTP転送] を使用するためには、以下のOSがインストールされたパソコンが必要です。また、そのパソコンをあらかじめFTPサーバーとして機能させておく必要があります。

- ・ Windows 7 (Professional/Enterprise/Ultimate の32bit/64bit システム用)
- ・ Windows Vista (Business/Enterprise/Ultimateの32bit/64bitシステム用)
- ・ Windows XP Professional
- ・ Mac OS X 10.6、10.7

パソコンをFTPサーバーとして機能させる方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。

以下のOSはFTPサーバー機能がないため、FTP転送はできません。

- ・ Windows 7 Home Premium
- ・ Windows Vista Home Premium/Home Basic Edition
- ・ Windows XP Home Edition

●EOS Utility

カメラに付属しているソフトウェアEOS Utilityで行うリモート撮影を、無線／有線LANで行うときに選びます。

USBケーブルの代わりに無線／有線LANを利用する仕組みなので、リモート撮影だけでなく、EOS Utilityで行うことができるすべてのカメラ操作が可能です。

カメラに付属しているソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンが必要です。

●WFTserver

WFT-E7のサーバー機能を利用したリモート撮影を、無線／有線LANで行うときに選びます。

また、カメラにセットされたメモリーカード内の画像を閲覧して、パソコンに取り込むことができます。

Webのホームページにアクセスする感覚で、3台のパソコンがカメラにアクセスすることができます。

使用できるパソコンのOSについて

Webブラウザを備えたパソコンであれば、OSを問わず使用することができます。

なお、Webブラウザを備えていれば、パソコン以外の機器でも使用することができます。ただし、WebブラウザがJavaスクリプトに対応していないときは、WFTServerの機能が制限されます。また、機器の性能によっては、映像の表示速度が遅かったり、画像を機器に取り込むことができない場合があります。

●MediaServ. (メディアサーバー)

カメラにセットされたメモリーカード内の画像を、無線／有線LANを経由してテレビで閲覧するときに選びます。

この機能を利用するためには、DLNA対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーが必要です。

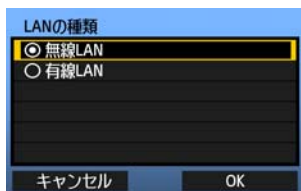
●連動撮影

WFTシリーズを装着して連動撮影ができるカメラを使用して、複数のカメラで連動撮影するときに選びます。リリースを行うマスターカメラに対し、10台までのスレーブカメラを連動させることができます。なお、マスターカメラのリリースからスレーブカメラの撮影までは、若干のタイムラグが生じます。また、動画撮影には対応していません。

これ以降の【連動撮影】に関する説明は、69ページを参照してください。

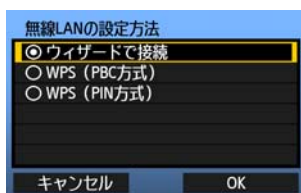
LANの種類を選ぶ

[連動撮影] は、69ページを参照してください。この章の、このページ以降、[連動撮影] に関する説明はありません。



- <⊙> を回して LAN の種類を選び、<ⓈET> を押します。
- [OK] を選び <ⓈET> を押すと次の画面に進みます。

無線LAN



[無線LANの設定方法] 選択画面が表示されます。

[ワイザードで接続] : 23ページ参照

[WPS (PBC方式)] : 25ページ参照

[WPS (PIN方式)] : 26ページ参照

[WPS (PBC方式)]、[WPS (PIN方式)] は、WPS : Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) に対応した無線LAN端末使用時に選択します。

有線LAN

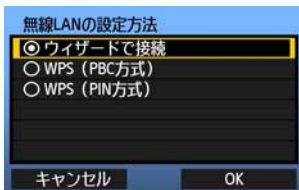
[ネットワーク] 設定画面が表示されます。有線LANを選択したときは、27ページの「ネットワークを設定する」に進んでください。

なお、LANケーブルは、カテゴリー5e以上の「STPケーブル」を使用してください。(STP : Shielded Twisted Pairの略)

ウィザードで接続する

無線LANの接続先を選ぶ

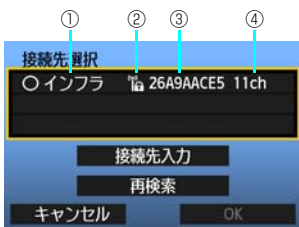
【ウィザードで接続】を選ぶと、近くで稼働中の無線LAN端末の一覧とその情報が表示されます。自分が使用している無線LAN端末のSSID（またはESS-ID）を選びます。



1

【ウィザードで接続】を選ぶ

- <⊙> を回して 【ウィザードで接続】 を選び、<SET> を押します。



2

無線LAN端末を選ぶ

- <SET> を押すと、無線LAN端末が選択できるようになります。
- <⊙> を回して無線LAN端末を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選び <SET> を押すと次の画面に進みます。

- ① インフラ（インフラストラクチャー）かアドホックを表示
- ② 無線LAN端末が暗号化されているときはアイコンを表示
- ③ SSIDの先頭9文字を表示
- ④ 使用しているチャンネルを表示

無線LAN端末の暗号化について

無線LAN端末を暗号化するときには、【認証方式】と【暗号方式】を下記のいずれかに該当する設定にしてください。

- 【認証方式】：オープン、共有キー、WPA-PSK、WPA2-PSK
- 【暗号方式】：WEP、TKIP、AES

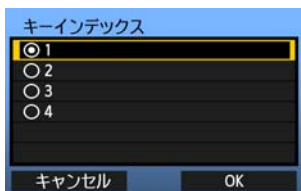
【接続先入力】と【再検索】について

- 【接続先入力】を選んで <SET> を押すと、手動で無線LAN端末に関する設定を行うことができます。表示される内容に従って設定を行ってください。
- 【再検索】を選んで <SET> を押すと、無線LAN端末を再検索します。

無線LANの暗号キーを設定する

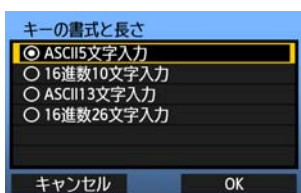
無線LAN端末に設定されている暗号キーを設定します。設定されている暗号キーについては、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。

なお、下記の手順1～3で表示される画面は、無線LAN端末に設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。



1

- [キーインデックス] の画面は、無線LAN端末の暗号方式がWEPのときのみ表示されます。
- <⊙>を回してアクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選び、<Ⓢ>を押します。
- [OK] を選び <Ⓢ> を押すと次の画面に進みます。



2

- <⊙>を回してキーの書式と長さを選び、<Ⓢ>を押します。
- [OK] を選び <Ⓢ> を押すと次の画面に進みます。



3

- 暗号キーを入力します。
- <Q> ボタンを押すと、入力エリアが交互に切り替わります。
- <⊙> を回すとカーソルが移動します。
- 下側の入力エリアで <⊙> を回し、<Ⓢ> を押して暗号キーを入力します。
- 入力を間違えたときは、<⏏> ボタンで消去します。
- <MENU> ボタンを押して無線LAN端末との接続が完了すると、[ネットワーク] 画面 (p.27) が表示されます。
- <INFO.> ボタンを押すと、入力をキャンセルして手順2の画面に戻ります。

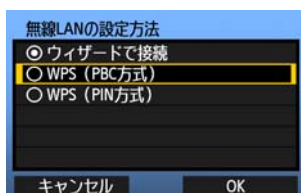
WPS (PBC方式) で接続する

WPS : Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) に対応した無線LAN端末使用時の接続方法です。PBC方式 (プッシュボタン接続方式) では、無線LAN端末のWPS用ボタンを押すことで、カメラと無線LAN端末の接続を簡単に行うことができます。

なお、周囲に複数の無線LAN端末が稼動していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、[WPS (PIN方式)] で接続してください。

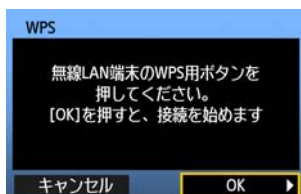
無線LAN端末に付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

無線LAN端末のステルス機能を有効にしていると接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。



1 [WPS (PBC方式)] を選ぶ

- <○> を回して [WPS (PBC方式)] を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選び <SET> を押すと次の画面に進みます。



2 無線LAN端末に接続する

- 無線LAN端末のWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。
- [OK] を選び <SET> を押すと、無線LAN端末との接続を開始します。
- 無線LAN端末との接続が完了すると、[ネットワーク] 画面 (p.27) が表示されます。

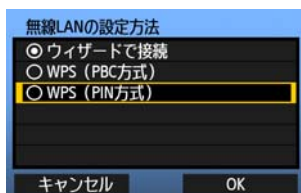
WPS (PIN方式) で接続する

WPS : Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) に対応した無線LAN端末使用時の接続方法です。PIN方式 (ピンコード接続方式) では、カメラが指定する8桁の識別番号を無線LAN端末に設定して接続します。

周囲に複数の無線LAN端末が稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。

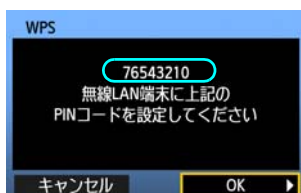
接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

無線LAN端末のステルス機能を有効にしていると接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。



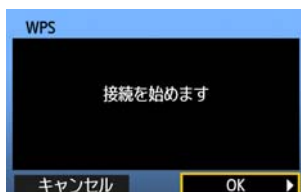
1 [WPS (PIN方式)] を選ぶ

- <○> を回して [WPS (PIN方式)] を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選び <SET> を押すと次の画面に進みます。



2 無線LAN端末にPINコードを設定する

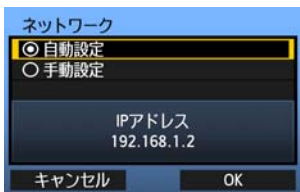
- カメラの液晶モニターに表示される 8 桁の PIN コードを無線LAN端末に設定します。
- 無線LAN端末へのPINコードの入力方法は、無線LAN端末の使用説明書を参照してください。
- [OK] を選び <SET> を押すと確認画面が表示されます。



3 無線LAN端末に接続する

- [OK] を選び <SET> を押すと、無線LAN端末との接続を開始します。
- 無線LAN端末との接続が完了すると、[ネットワーク] 画面 (p.27) が表示されます。

ネットワークを設定する



- **◂** を回してネットワークの内容を選び、**<SET>** を押します。
- **[OK]** を選び **<SET>** を押すと次の画面に進みます。

[自動設定]

- **[手動設定]** で行う設定を自動的に行うことができます。ただし、DHCP サーバーやDHCP サーバー機能を持つ無線LAN端末やルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。なお、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっているにも関わらずエラーが表示される場合は、**[手動設定]** を選んでください。

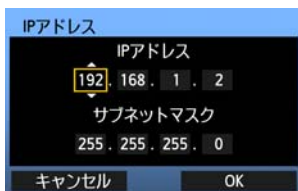
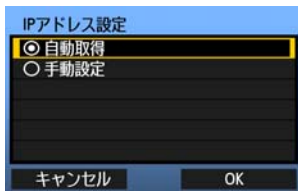
[手動設定]

[手動設定] を選ぶと **[IPアドレス設定]** の画面が表示されます。**[自動設定]** でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動設定してください。なお、IPアドレスは、カメラに割り当てるIPアドレスを設定します。

表示される画面にしたがって **[IPアドレス]**、**[サブネットマスク]**、**[ゲートウェイ]**、**[DNSアドレス]** を設定します。

設定する内容がわからない場合は、112ページの「ネットワークの設定を確認する」を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

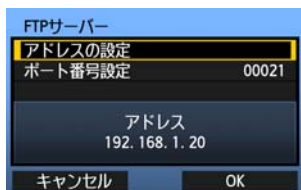
- IP アドレスやサブネットマスクなどの数値を入力するときは、**<SET>** を押して入力場所を選択し、**◂** を回して数値を入力します。



通信方法に応じた設定を行う

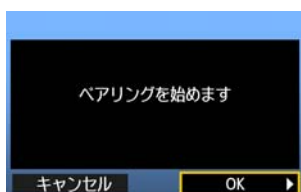
ここからは、下記のようにFTP転送、EOS Utility、WFTサーバー、メディアサーバーの各通信方法に応じた設定画面になります。選択した通信方法の説明ページをお読みください。

FTP転送



2章 (p.31)

EOS Utility



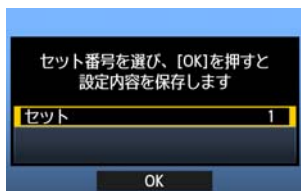
3章 (p.47)

Windows 7とWindows Vistaをお使いの方へ

47ページからの操作を行う前に、以下の操作を行ってください。この操作を行わないと、48ページで説明している「WFTペアリングソフト」が起動しない場合があります。

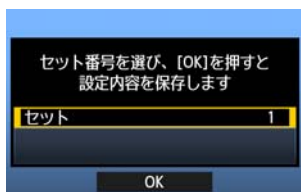
[C] ドライブ → [Program Files] → [Canon] → [EOS Utility] → [WFTPairing] フォルダの順に開き、[WFT FirewallSettings] アイコンをダブルクリックします。
この操作を行ってから47ページの操作を行ってください。

WFTserver (WFTサーバー)



4章 (p.53)

MediaServ. (メディアサーバー)



5章 (p.65)

仮想キーボードの操作方法について

仮想キーボードは、暗号キーやサーバー名の入力時に表示されます。



入力エリアの切り換え

〈Ⓚ〉 ボタンを押すと、入力エリアが交互に切り換わります。

カーソルの移動

〈Ⓞ〉 を回すとカーソルが移動します。

〈Ⓞ〉 でも移動できます。

文字の入力

下側の入力エリアで 〈Ⓞ〉 を回してカーソルを移動し、〈SET〉 を押して文字を入力します。

〈Ⓞ〉 でも移動できます。

画面右上の「*/5」で、入力した文字数を確認することができます。

文字の削除

入力を間違えたときは、〈Ⓚ〉 ボタンで消去します。

入力の終了

〈MENU〉 ボタンを押すと、入力を確定して次の画面に進みます。

入力のキャンセル

〈INFO.〉 ボタンを押すと、入力をキャンセルして前の画面に戻ります。



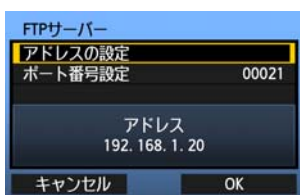
2

FTP サーバーへの 画像転送

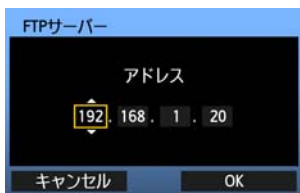
FTP転送では、撮影した画像を撮影時にFTPサーバーへ自動転送できるほか、撮影後にまとめて転送することができます。

FTP転送の通信設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。



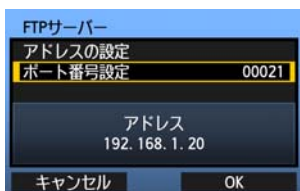
- 1 ● <⊙> を回して [アドレスの設定] を選び、<Ⓢ> を押します。



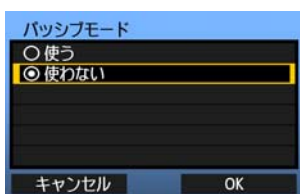
- 2 ● DNSサーバーを [使わない] 設定のときは、左の画面が表示されます。
● <Ⓢ> を押して入力場所を選択し、<⊙> を回して FTPサーバーのIPアドレスを入力します。



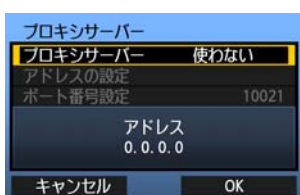
- DNSサーバーのIPアドレスを [自動取得]、または [手動設定] としているときは、左の画面が表示されます。
● 画面の操作は、「仮想キーボードの操作方法について」(p.29) を参照してください。
● FTPサーバーのサーバー名、またはIPアドレスを設定します。



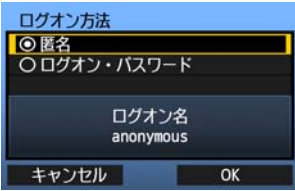
- 3 ● [ポート番号設定] は、通常00021を設定します。
● <⊙> を回して [OK] を選び、<Ⓢ> を押すと次の画面に進みます。



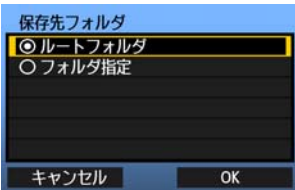
- 4 ● [パッシブモード] の設定を行います。
● 手順8で「エラー41：FTPサーバーに接続できません」が表示されたときは、[パッシブモード] を [使う] 設定にすると解決することがあります。



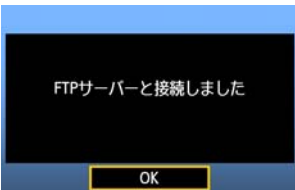
- 5 ● [プロキシサーバー] の設定を行います。
● <⊙> を回して [OK] を選び、<Ⓢ> を押すと次の画面に進みます。



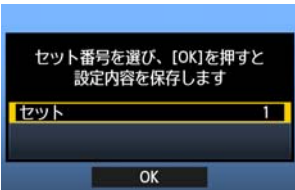
- 6 ● [ログイン方法] の設定を行います。
- <⊙> を回して [OK] を選び、<SET> を押すと次の画面に進みます。



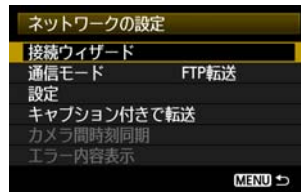
- 7 ● [保存先フォルダ] の設定を行います。
- [ルートフォルダ] を選択すると、FTP サーバーで設定したルートフォルダの中に保存されます。(p.86)
- [フォルダ指定] を選択すると、ルートフォルダの中にある保存先フォルダを指定することができます。フォルダがないときは、自動作成されます。
- <⊙> を回して [OK] を選び、<SET> を押すとFTPサーバーに接続します。



- 8 ● 表示される確認画面で [OK] を選び、<SET> を押します。
- <LAN> ランプが緑色に点灯します。



- 9 ● <SET> を押して <⊙> を回し、セット番号を選択して <SET> を押します。
- <⊙> を回して [OK] を選び、<SET> を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。



- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E7には保存されません。

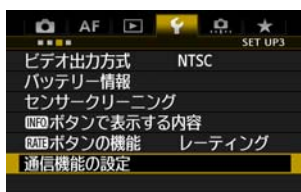
これでFTP転送のネットワーク設定は完了です。

撮影時に自動転送する

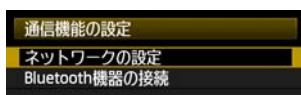
撮影した画像をすぐにFTPサーバーへ自動転送します。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

必ずメモリーカードを入れて撮影してください。画像が記録されない状態で撮影すると、画像が転送されません。

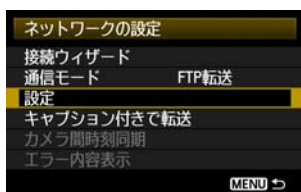
動画は撮影時に自動転送できません。撮影後、37～44ページで説明している方法で転送してください。



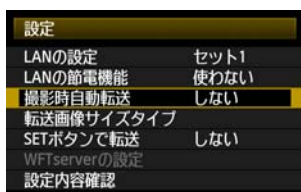
1 【通信機能の設定】を選ぶ



2 【ネットワークの設定】を選ぶ



3 【設定】を選ぶ



4 【撮影時自動転送】を選ぶ

- [する] を選びます。



5 撮影する

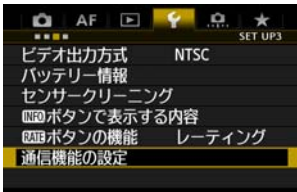
- 撮影した画像がFTPサーバーに転送されます。



- 連続撮影したときは、撮影した順にFTPサーバーへ画像が転送されます。
- 撮影した画像は、メモリーカードにも記録されます。
- 転送が中断した画像や、転送に失敗した画像は、通信状態が回復すると、自動的に再転送されます (p.36)。なお、あとからまとめて再転送することもできます (p.40)。

転送する画像のサイズとタイプを設定する

撮影時自動転送では、「CFカードとSDカードに異なるサイズの画像が記録されたとき」や「RAW画像とJPEG画像が同時記録されたとき」に、どちらの画像を転送するかを設定することができます。



1 【通信機能の設定】を選ぶ



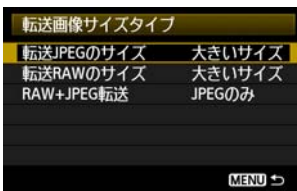
2 【ネットワークの設定】を選ぶ



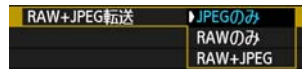
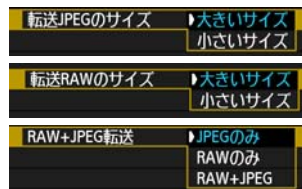
3 【設定】を選ぶ



4 【転送画像サイズタイプ】を選ぶ



5 転送する画像のサイズとタイプを選ぶ



撮影時に自動転送する

- CFカードとSDカードの一方にJPEGラージを、もう一方のカードにJPEGスモールを記録する設定で、JPEGスモールの方を転送したいときは、「転送JPEGのサイズ：小さいサイズ」に設定します。
- CFカードとSDカードの一方にRAWを、もう一方のカードにJPEGを記録する設定のときは、[RAW+JPEG 転送] の設定で転送する画像を決めます。メモリーカード 1 枚にRAW+JPEG同時記録を行うときも同様に設定します。
- 同じ画像サイズの画像がCFカードとSDカードに同時記録される場合は、記録画質（圧縮率）に関係なく、CFカードに記録される画像が転送されます。

転送失敗画像の自動再転送について



転送に失敗すると、WFT-E7の表示パネルにエラー番号が表示され、〈LAN〉ランプが赤色に点滅します。この場合は、98ページを参照してエラーの原因を取り除いてください。

エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。この自動再転送機能は、撮影時自動転送のときだけでなく、撮影後の画像

をFTP転送するときも働きます。なお、転送をキャンセルしたり、WFT-E7やカメラの電源を切った時は、自動再転送されません。40ページを参照して転送してください。

節電機能を使う

設定	
LANの設定	セット1
LANの節電機能	使わない
撮影時自動転送	しない
転送画像サイズタイプ	
SETボタンで転送	しない
WFTserverの設定	
設定内容確認	

- メニューの [通信機能の設定] → [ネットワークの設定] → [設定] → [LANの節電機能] で設定します。
- [使う] に設定すると、FTP転送後、FTPサーバーからログオフして無線LAN、有線LANを休止します。画像転送が行われる状態になると、自動的に無線LAN、有線LANを起動してFTPサーバーに再接続します。

1枚ずつ転送する

画像を選び、〈SET〉を押すだけで転送することができます。また、キャプション（見出し）を付けて画像を転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

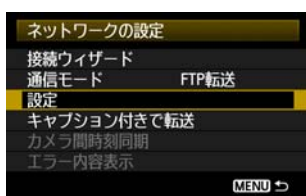
再生して転送する



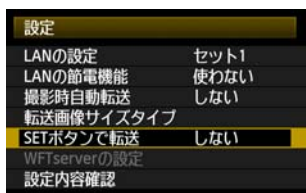
1 【通信機能の設定】を選ぶ



2 【ネットワークの設定】を選ぶ



3 【設定】を選ぶ



4 【SETボタンで転送】を選ぶ

- [する] を選びます。



5 画像を選ぶ

- カメラの〈▶〉ボタンを押します。
- 転送する画像を選び、〈SET〉を押すとその画像が転送されます。
- 動画は転送できません。動画を選んで〈SET〉を押すと、動画再生パネルが表示されます。

キャプション付きで転送する

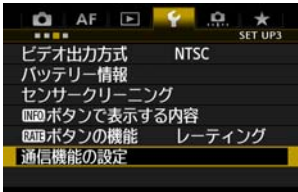
登録したキャプションを画像に付加して、1枚ずつ転送することができます。印刷する枚数などを画像転送先に伝えたいときなどに便利です。なお、カメラに保存された画像にもキャプションが付加されます。

キャプションの作成／登録方法は、114ページを参照してください。

画像に付加されたキャプションは、Exif情報のユーザーコメント欄で確認することができます。

1 撮影する

2 【通信機能の設定】を選ぶ



3 【ネットワークの設定】を選ぶ



4 【キャプション付きで転送】を選ぶ





→ 最後に撮影された画像が表示されます。



- 【キャプション付きで転送】画面では、画像を任意に選択することはできません。ほかの画像をキャプション付きで転送するときは、その画像を再生してからこの操作を行ってください。





5 キャプションを選ぶ

- 〈〉を回して [キャプション] の枠を選び、〈〉を押します。
- 〈〉を回してキャプションの内容を選び、〈〉を押します。



6 画像を転送する

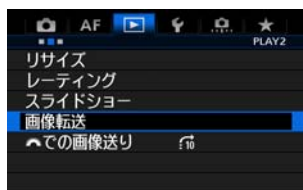
- 〈〉を回して [転送] を選び、〈〉を押します。

まとめて転送する

撮影後に、複数の画像を任意に選択しての転送や、未転送画像、転送失敗画像の一括転送を行うことができます。

なお、転送中も通常どおりに静止画撮影を行うことができます。

画像を任意に選択して転送する



1 メニューの「画像転送」を選ぶ



2 「画像選択/転送」を選ぶ



3 「画像選択」を選ぶ
→ 画像が表示されます。



4 転送する画像を選ぶ

- 〈SET〉を押して〈Q〉を回し、転送する画像の左上に〈✓〉を表示させます。
- 〈SET〉を押すと確定します。
合計9999画像まで選択できます。
- 〈Q〉ボタンを押しながら〈Q〉を左に回すと3枚表示になります。〈Q〉ボタンを押しながら〈Q〉を右に回すと1枚表示に戻ります。



- 転送する画像の選択が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。

5 画像を転送する

- [FTP転送] を選びます。
 - 表示される確認画面で [OK] を選びます。
- 転送状態を示す画面が表示されます。



[RAW+JPEG転送] について



前ページ手順2で [RAW+JPEG 転送] を選ぶと、RAW+JPEG同時記録で撮影した画像を、どちらか一方、または両方転送することができます。

[画像選択] [■選択] [全画像] のどの画像選択方法でも有効です。

画像転送中のメニュー操作について

画像転送中もメニュー操作を行うことができますが、画像転送に不都合を及ぼす [ネットワークの設定]、[画像プロテクト]、[画像消去]、[カード初期化]、[記録機能とカード・フォルダ選択] などのメニュー項目は操作できないようになっています。

📷 撮影後に画像転送している途中で動画撮影すると、その間、画像転送が中断されます。

フォルダ内の画像を一括転送する



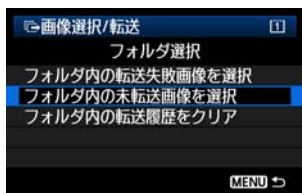
1 メニューの [画像転送] を選ぶ



2 [画像選択/転送] を選ぶ



3 [選択] を選ぶ



4 [フォルダ内の未転送画像を選択] を選ぶ

- 転送に失敗した画像を転送するときは、[フォルダ内の転送失敗画像を選択] を選びます。




5 フォルダを選択する

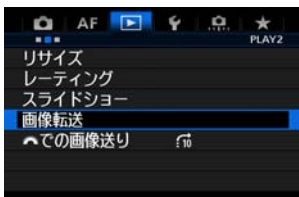


6 画像を転送する

- [FTP転送] を選びます。
 - 表示される確認画面で [OK] を選びます。
- 転送状態を示す画面が表示されます。

 [フォルダ内の転送履歴をクリア] を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が「未転送」になります。この操作をしたあとで [フォルダ内の未転送画像を選択] を選ぶと、フォルダ内の全画像を再転送することができます。

メモリーカード内の画像を一括転送する



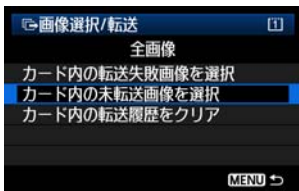
1 メニューの [画像転送] を選ぶ



2 [画像選択/転送] を選ぶ



3 [全画像] を選ぶ



4 [カード内の未転送画像を選択] を選ぶ

- 転送に失敗した画像を転送するときは、[カード内の転送失敗画像を選択] を選びます。



5 画像を転送する

- [FTP転送] を選びます。
- 表示される確認画面で [OK] を選びます。
- 転送状態を示す画面が表示されます。



[カード内の転送履歴をクリア] を選ぶと、メモリーカードに入っている画像の転送履歴が「未転送」になります。この操作をしたあとで [カード内の未転送画像を選択] を選ぶと、カード内の全画像を再転送することができます。

転送履歴を確認する

1 画像ずつ転送履歴を確認する

[画像選択/転送] で [画像選択] を選ぶと、転送履歴を確認することができます。



未選択画像（マークなし）



転送する画像

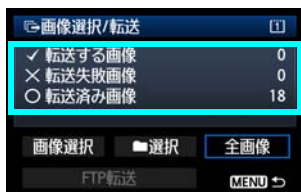


転送失敗画像



転送済み画像

メモリーカード単位で確認する



[画像選択/転送] で表示される画面は、これから転送する画像の枚数のほかに、メモリーカードに入っている画像のうち、[転送失敗画像]、[転送済み画像] が何枚あるかという転送履歴を確認することができます。




3

EOS Utilityで リモート撮影

EOS Utilityで行うリモート撮影を、無線／有線LANで行うことができます。

USBケーブルの代わりに無線／有線LANを利用する仕組みなので、リモート撮影だけでなく、EOS Utilityで行うことができるすべてのカメラ操作が可能です。

 Mac版のEOS Utilityは、WFT-E7の無線／有線LAN機能と連携して使用することができません（2011年11月時点）。最新の対応状況につきましては、弊社ホームページでご確認ください。

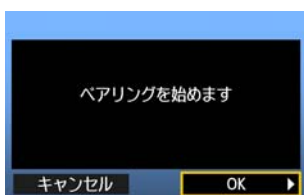
EOS Utilityの通信設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。

EOS Utilityでは、カメラに付属のソフトウェア「WFTペアリングソフト」を使用してパソコンに接続します。

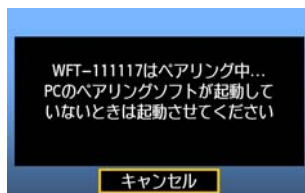
「WFTペアリングソフト」は、カメラの付属ソフトウェアを「おまかせインストール」している場合、自動的にインストールされています。インストールされていないときは、WFT-E7が接続するパソコンに、あらかじめインストールしておいてください。

ここでは、Windows 7の場合を例にして説明しています。



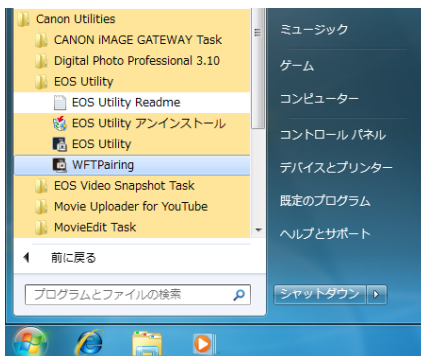
1

- ペアリングの画面が表示されます。
- 〈○〉を回して [OK] を選び、〈Ⓜ〉を押すと下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、接続しようとしているWFT-E7のMACアドレス下6桁です。

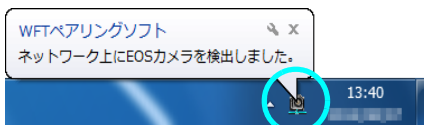


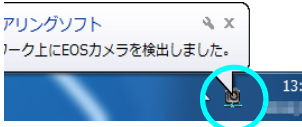
2

- ペアリングソフトを起動します。
- 通常は、EOS Utilityと同じ場所にインストールされています。



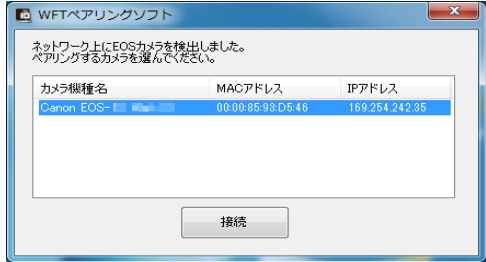
- ➔ ペアリングソフトが起動すると、タスクバーにアイコンが表示されます。
- ➔ カメラを検出すると、メッセージが表示されます。





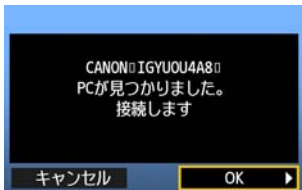
3

- ペアリングソフトのアイコンをダブルクリックします。
- 検出されたカメラの一覧が表示されます。すでに接続されているカメラがある場合、そのカメラは一覧の中には表示されません。

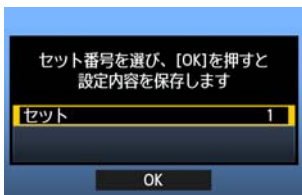


- [接続] を押します。
- 複数のカメラが表示されるときは、[MACアドレス]、または [IPアドレス] で接続するカメラを特定します。
- [MACアドレス] と [IPアドレス] は、メニューの [設定内容確認] (p.84) で確認できます。

4



- 手順3で [接続] 操作をしたパソコンが見つかると、左記の表示になります。
- <OK> を回して [OK] を選び、<SET> を押します。



5

- <SET> を押して <OK> を回し、セット番号を選択して <SET> を押します。
- <OK> を回して [OK] を選び、<SET> を押すと接続ウィザードが終了して、EOS Utilityが起動します。
- WFT-E7の <LAN> ランプが緑色に点灯します。
- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E7には保存されません。

これでEOS Utilityのネットワーク設定は完了です。


EOS Utility の通信設定を行う

- 一度ペアリングを行った「カメラと WFT-E7、パソコンの組み合わせ」で、設定を変えずに使い続ける場合、次回からはペアリングを行う必要はありません。
次回使うときは、WFT-E7を取り付けたカメラの電源スイッチを入れて、ペアリングソフトを起動するだけで、カメラとパソコンの接続が自動的に行われます。
- ペアリングソフトは、スタートアップメニューに登録することができます。EOS Utilityの [環境設定] → [基本設定] タブの、 WFTペアリングソフトをスタートアップに登録する にチェックを入れてください。

EOS Utilityを使う

EOS Utilityの操作方法については、ソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。
USB接続のときと同様に、EOS Utilityの機能を制限なく使用することができます。



 リモートライブビュー撮影では、USB接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。



4

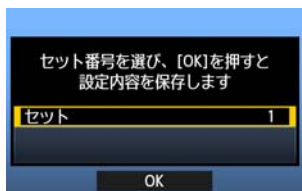
WFT サーバーで リモート撮影

Webブラウザを利用して、カメラにセットされたメモリーカード内の画像を閲覧して、パソコンに取り込むことができます。

また、リモート撮影を、無線／有線LANで行うことができます。なお、バルブ撮影、ミラーアップ撮影と動画撮影はできません。

WFTサーバーの通信設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。



- 〈SET〉 を押して 〈○〉 を回し、セット番号を選択して 〈SET〉 を押します。
 - もう一度 〈SET〉 を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。
- WFT-E7の〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。



- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E7には保存されません。

アカウントを設定する

パソコンからカメラに接続するための、ログオン名とパスワードを設定します。ここで設定したログオン名とパスワードは、パソコンからカメラに接続する際に使用します。



1

- 〈○〉 を回して [設定] を選び、〈SET〉 を押します。



2

- 〈○〉 を回して [WFTserverの設定] を選び、〈SET〉 を押します。



- 3 ● <⊙> を回して [WFTアカウント] を選び、<Ⓜ> を押します。
- ポート番号を変更するときは、<⊙> を回して [ポート番号] を選び、<Ⓜ> を押します。なお、通常、ポート番号 (80) の変更は必要ありません。



- 4 ● ユーザー番号を選びます。
- WFTサーバーでは、カメラ1台に対し、パソコン3台が接続できます。複数のパソコンがWFT-E7に接続するときは、重複しないユーザー番号を選びます。
- <⊙> を回して [ユーザー*] を選び、<Ⓜ> を押します。



- 5 ● [ログオン名] と [パスワード] を選ぶと、下記の入力画面が表示されます。
- 入力画面の操作は、「仮想キーボードの操作方法について」(p.29) を参照してください。



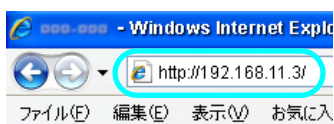
これでWFTサーバーのネットワーク設定は完了です。

WFTサーバーを表示する

WebブラウザにWFT-E7の操作画面「WFTサーバー」を表示します。あらかじめカメラとパソコンのLAN接続を確立しておきます。

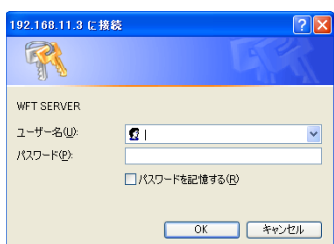
1 Webブラウザを起動する

- インターネットエクスプローラーなどのWebブラウザを起動します。



2 URLを入力する

- URLの入力欄に、カメラに設定しているIPアドレスを入力します。
- <Enter> キーを押します。



3 [ログオン名] と [パスワード] を入力する

- 55 ページで設定した [ログオン名] と [パスワード] を入力します。[OK] を押すとWFTサーバーの画面が表示されます。
- WebブラウザがJavaスクリプト対応のときは、手順4左側の画面が表示されます。Javaスクリプト非対応のときは、メッセージ画面が表示されます。Javaスクリプトを使用しない選択をすると、手順4右側の、機能が限定された画面が表示されます。

4 言語を選択する

- 画面下側の言語を選択します。



Javaスクリプト対応



Javaスクリプト非対応



URL (IPアドレス) がわからないときは

メニューの [設定内容確認] (p.84) でURL (IPアドレス) が確認できます。

画像を閲覧する

カメラのメモリーカードに入っている画像を閲覧することができます。



1

【閲覧】を押す

→ 画像の閲覧画面が表示されます。

2

メモリーカードを選ぶ

- [CF] か [SD] をクリックします。
- [DCIM] フォルダをクリックし、画像の入っているフォルダを選択します。



3

画像を選ぶ

- 別の画像を見るときは、<◀◀▶▶▶> ボタンとページジャンプ機能を使います。
- WebブラウザがJavaスクリプト対応のときは、1画面に表示するサムネイル画像の数を、右上のプルダウンで設定することができます。



4 パソコンに画像を取り込む

- サムネイル画像をクリックします。
- ➔ 画像が大きく表示されます。
- 〈📄〉をクリックすると、画像をダウンロードすることができます。
- [戻る] を押すと、画像閲覧画面に戻ります。



RAWと動画は本画像を表示できませんが、JPEGと同じ方法で画像をパソコンに取り込むことができます。

リモート撮影する [詳細撮影]

あらかじめ、カメラがライブビュー撮影できる状態にしておきます。なお、動画のリモート撮影はできません。

WebブラウザがJavaスクリプト非対応のときは、63ページの「リモート撮影する」を参照してください。



- 1** [詳細撮影] を押す
→ 詳細撮影画面が表示されます。



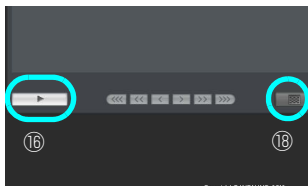
①	電池チェック
②	ドライブモード
③	撮影可能枚数
④	AFモード
⑤	リリースボタン
⑥	AF/MF切り換えスイッチ
⑦	シャッター速度
⑧	絞り数値
⑨	ISO感度
⑩	露出補正

⑪	記録画質
⑫	撮影モード
⑬	ホワイトバランス
⑭	測光モード
⑮	メニュー
⑯	ライブビュー撮影ボタン
⑰	マニュアルフォーカスボタン
⑱	ライブビュー映像サイズ切り換えボタン
⑲	ライブビュー映像表示画面

* WFTサーバー側で設定変更できない機能は、画面上でグレー表示になります。

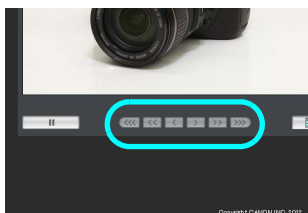
2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定する

- この状態で「⑤リリースボタン」を押して、「離すと」AFが行われ撮影されます。
- ワンショットAFでは、ピントが合わないと撮影されません。次の手順以降の操作でライブビュー映像を表示して、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。



3 ライブビュー映像を表示する

- 「⑬ライブビュー撮影ボタン」を押します。
→ 「⑭ AF/MF 切り換えスイッチ」が〈MF〉に設定され、ライブビュー映像が表示されます。
- ライブビュー映像が表示されないときは、「⑮メニュー」でライブビュー撮影ができる設定にしてください。
- ライブビュー映像の応答性を速くしたいときは、「⑯ライブビュー映像サイズ切り換えボタン」を押すと、ライブビュー映像が縮小され、応答性が速くなります。もう一度押すと元のサイズに戻ります。



4 手動でピントを合わせる

- 〈◀◀◀〉 〈◀◀〉 〈◀〉 〈▶〉 〈▶▶〉 〈▶▶▶〉 を押してピント合わせを行います。ライブビュー映像表示中は、AFでのピント合わせはできません。
- 〈◀◀◀〉 〈◀◀〉 〈◀〉 は近距離側、〈▶▶〉 〈▶▶▶〉 は遠距離側にピントが移動します。
- ピントの移動量は3段階から選ぶことができます。
 〈◀◀◀〉 〈▶▶▶〉: 大
 〈◀◀〉 〈▶▶〉: 中
 〈◀〉 〈▶〉: 小



5 撮影機能を設定する

- 記録画質などの項目をクリックするとその内容が表示され、設定を行うことができます。
- 必要な設定を行います。



6 撮影する

- 「⑤リリースボタン」を押して、「離すと」撮影されます。
- ➔ 撮影した画像が表示されます。
- 撮影した画像は、カメラのメモリーカードに保存されます。
- パソコンに画像を取り込むときは、57ページの「閲覧」機能を利用します。

複数のパソコンがアクセスしている状態で撮影を行うと、ライブビュー映像の動きが止まる場合があります。

リモート撮影する【簡易撮影】

あらかじめ、カメラがライブビュー撮影できる状態しておきます。なお、動画のリモート撮影はできません。

WebブラウザがJavaスクリプト非対応のときは、63ページの「リモート撮影する」を参照してください。



1【簡易撮影】を押す

- ➔ 簡易撮影画面とライブビュー映像が表示されず。



ライブビュー映像表示画面

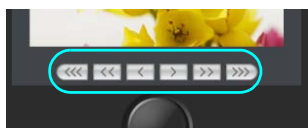
マニュアルフォーカスボタン

◀◀◀ ◀◀ ◀ ◃ ◃◃ ◃◃◃ : 近距離側にピントが移動
▶ ▶▶ ▶▶▶ ▶▶▶▶▶▶▶▶▶ : 遠距離側にピントが移動

ピント移動量

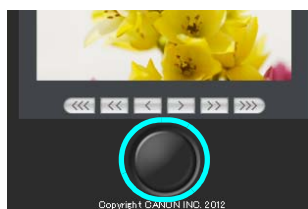
◀◀◀◀◀ ◃◃◃◃◃◃ : 大
◀◀◀◀ ◃◃◃◃ : 中
◀◀◀ ◃◃◃ : 小

リリースボタン



2 手でピントを合わせる

- レンズのフォーカスモードスイッチは、〈AF〉に設定しておきます。
- 〈◀◀◀◀〉 〈◃◃◃◃〉 〈◃◃◃〉 〈◃▶〉 〈▶▶〉 〈▶▶▶▶▶▶〉を押してピント合わせを行います。



3 撮影する

- リリースボタンを押して、「離すと」撮影されます。
- ➔ 撮影した画像が表示されます。
- 撮影した画像は、カメラのメモリーカードに保存されます。
- パソコンに画像を取り込むときは、57ページの【閲覧】機能を利用します。

リモート撮影する

WebブラウザがJavaスクリプト非対応のときのリモート撮影です。

あらかじめ、カメラがライブビュー撮影できる状態にしておきます。なお、動画のリモート撮影はできません。



1

【撮影】を押す

- 撮影画面が表示されます。
- ライブビュー映像は表示されません。



リリースボタン

2

撮影する

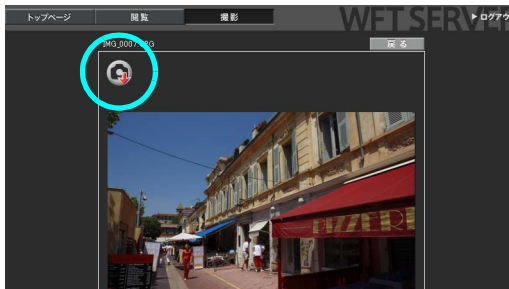
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にし、カメラ側でピント合わせを行います。
- レリーズボタンを押して、「離すと」撮影されます。
- 撮影した画像が表示されます。
- 撮影した画像は、カメラのメモリーカードに保存されます。



3

パソコンに画像を取り込む

- 画像をクリックします。
- 画像が大きく表示されます。
- 〈🔄〉をクリックすると、画像をダウンロードすることができます。
- [戻る] を押すと、撮影画面に戻ります。



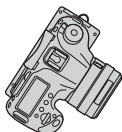
RAWは本画像を表示できませんが、JPEGと同じ方法で画像をパソコンに取り込むことができます。

連動撮影との連携

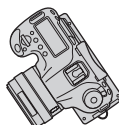
WFTサーバーのリモート撮影と「連動撮影」(p.74)を組み合わせることができます。また、マスターカメラやスレーブカメラのメモリーカードに入っている、画像の閲覧や画像の取り込みを行うことができます。

連動撮影

スレーブカメラ



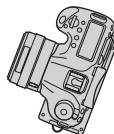
スレーブカメラ



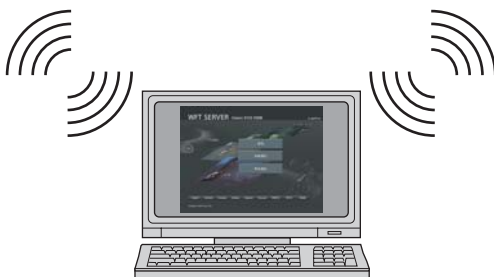
スレーブカメラ



マスターカメラ



スレーブカメラ



WFTサーバー

5

メディアサーバーにする

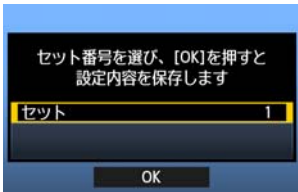
カメラにセットされたメモリーカード内の画像を、無線／有線LANを経由してテレビで閲覧することができます。

この機能を利用するためには、DLNA*対応のテレビやフォトフレームなどのメディアプレーヤーが必要です。以降の説明では、メディアプレーヤーと総称しています。

*Digital Living Network Allianceの略

メディアサーバーの通信設定を行う ■

この項では、1章からの続きを説明しています。



- 〈SET〉を押して〈0〉を回し、セット番号を選択して〈SET〉を押します。
 - もう一度〈SET〉を押すと接続ウィザードが終了してメニュー画面に戻ります。
- WFT-E7の〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。



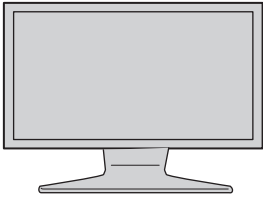
- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E7には保存されません。

これでメディアサーバーのネットワーク設定は完了です。

撮影した画像をテレビに映す

メディアプレーヤーを操作して、カメラにセットされたメモリーカード内の画像をテレビに映します。なお、RAW画像と動画は映すことができません。

ここからの操作は、すべてメディアプレーヤーで行います。詳しいことは、メディアプレーヤーの使用説明書を参照してください。



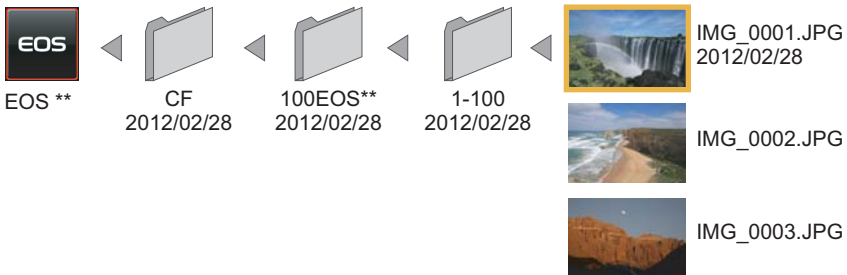
1 テレビにメディアプレーヤーの設定画面を表示する

- メディアプレーヤー機能を使用して、テレビに〈EOS EOS**〉(メディアサーバー) アイコンを表示します。
- メディアプレーヤーによっては、別のアイコンが表示されることがあります。その場合は、「EOS**」と表示されているアイコンを見つけてください。



2 〈EOS EOS**〉 (メディアサーバー) アイコンを選ぶ

- 〈EOS EOS**〉 アイコンを選ぶとメモリーカードが表示され、さらに選んでいくと、フォルダと画像が選択できます。
- 画像を選んで、テレビに大きく表示させることができます。詳しくはメディアプレーヤーの使用説明書を参照してください。



- テレビに表示される画像情報と内容は、メディアプレーヤーによって異なります。また、メディアプレーヤーによっては、画像情報が表示されない場合があります。
- 「1-100」など表示されているアイコンは、選んだフォルダ (**EOS**) に入っている画像を、ファイル番号別に分けたものです。
- 画像に表示される年月日は、画像に付加されているExif情報を元に表示しています。
- メモリーカードやフォルダに表示される年月日は、カメラに設定されている今日の日付けが表示されることがあります。



6

連動撮影する

連動撮影では、リリースを行うマスターカメラに対し、10台までのスレーブカメラを無線LANで連動させることができます。

なお、マスターカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがリリースします。また、動画撮影には対応していません。



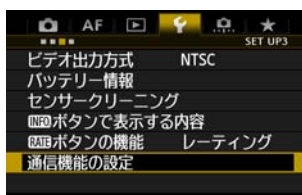
スレーブカメラ



マスターカメラ

スレーブカメラの準備

このページでスレーブの準備を終わらせた後、簡単な連動撮影をするときは次ページに進んでください。カメラ内の画像をパソコンで見たり、取り込んだりしたいときは、74ページに進んでください。



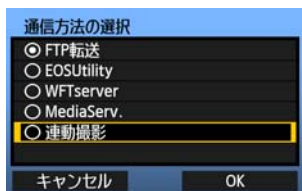
1 【通信機能の設定】を選ぶ



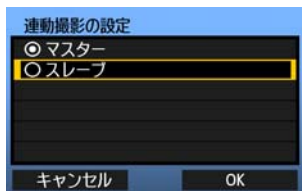
2 【ネットワークの設定】を選ぶ



3 【接続ウィザード】を選ぶ

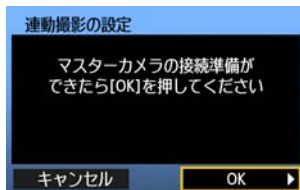


4 【連動撮影】を選ぶ



5 スレーブカメラを準備する

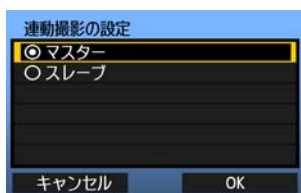
- [スレーブ] を選びます。
→ 表示される下記の画面で待機します。



- 複数のスレーブカメラを使用するときは、すべてのスレーブカメラをこの状態にしておきます。
- 設定完了後にスレーブの追加/削除はできません。もう一度手順1から設定を行う必要があります。

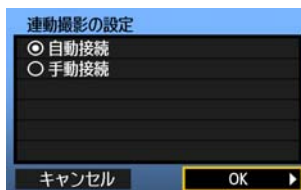
簡単な連動撮影

マスターカメラとスレーブカメラを連動させて撮影を行います。



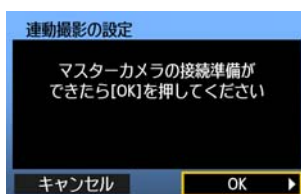
1 マスターカメラを準備する

- マスターカメラに、前ページの手順 1～3 を設定し、[マスター] を選びます。



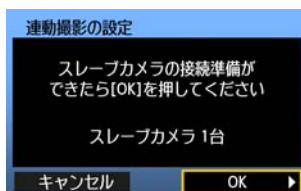
2 [自動接続] を選ぶ

- [手動接続] は、75ページを参照してください。



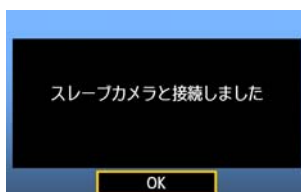
3 スレーブカメラの設定を進める

- スレーブカメラで [OK] を選びます。



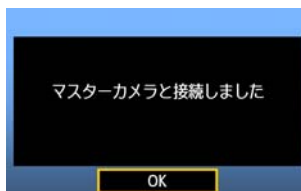
4 スレーブカメラの台数を確認する

- ➔ マスターカメラの液晶モニターに、検出したスレーブカメラの台数が表示されます。



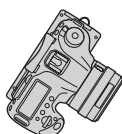
5 接続する

- マスターカメラと、すべてのスレーブカメラで [OK] を選びます。
- ➔ 接続確認画面が表示されます。
- 設定した内容はカメラに保存されません。WFT-E7 には保存されません。

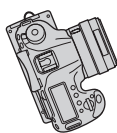
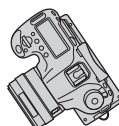


スレーブカメラを配置する

スレーブカメラ



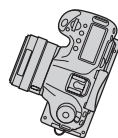
スレーブカメラ



スレーブカメラ



マスターカメラ



スレーブカメラ

- マスターカメラから見通しがよく、あいだに障害物のない場所にスレーブカメラを配置します。
- マスターカメラの全周囲約100m以内に配置することができます。なお、配置条件や周囲の環境、気象条件などの無線通信状態により、連動撮影できる距離が短くなることがあります。
- マスターカメラのシャッターボタンを半押しすると、スレーブカメラもシャッターボタン半押し状態になります。マスターカメラのシャッターボタンを全押しすると、スレーブカメラもシャッターボタン全押し状態になります。
- マスターカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがリリースします（同時には撮影できません）。



- 複数のストロボを使用しないでください。わずかですがカメラごとの撮影タイミングが異なりますので、ストロボの同調ズレや露出不良が起きる可能性があります。
- マスターカメラとスレーブカメラが、[ミラーアップ撮影] [する] または [する (SEI でミラーダウン)] に設定されているときは、連動撮影はできません。



- 連動撮影では、AEロックボタンと絞り込みボタンを押したときにも、シャッターボタン半押しと同じように、ピント合わせと測光が行われます。
- 一度接続を行ったマスターカメラとスレーブカメラは、電池交換などを行ってもその設定を記憶しています。
- 連動撮影から外したいスレーブカメラがある場合は、スレーブカメラの [通信モード] を [通信切] に設定します。
- WFTシリーズを装着して連動撮影ができるカメラであれば、機種に関係なくスレーブカメラにすることができます。

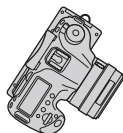
WFTサーバーとの連携

WFTサーバーでマスターカメラをリモートリリーズして、スレーブカメラを連動撮影させることができます。また、WFTサーバーからマスターカメラやスレーブカメラに接続して、ライブビュー映像を見たり、ピント合わせやリモート撮影の設定変更を行うことができます。

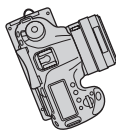
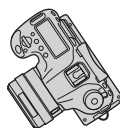
カメラのメモリーカードに入っている画像の閲覧や、画像の取り込みも行うことができます。

連動撮影

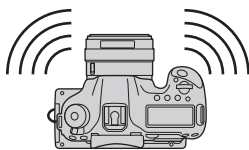
スレーブカメラ



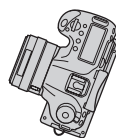
スレーブカメラ



スレーブカメラ



マスターカメラ



スレーブカメラ

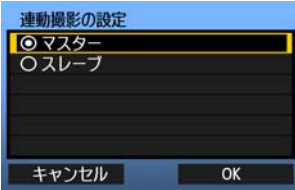


WFTサーバー

マスターカメラとスレーブカメラを接続する

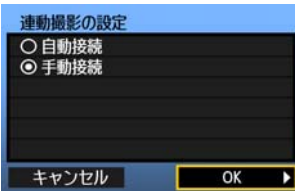
1 スレーブカメラを準備する

70ページの手順で、スレーブカメラの準備を行っておきます。

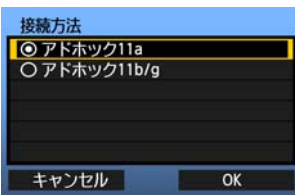


2 マスターカメラを準備する

● マスターカメラに、70ページの手順1～3を設定し、[マスター] を選びます。

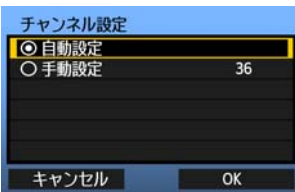


3 [手動接続] を選ぶ



4 接続方法を選ぶ

● パソコンが対応している、無線LANのアドホックモードを選びます。



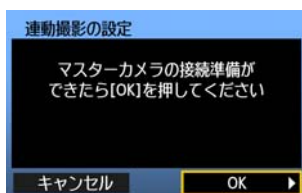
5 チャンネルを設定する

● [手動設定] を設定するときは、マスターカメラとスレーブカメラ、パソコンに同じチャンネルを設定します。



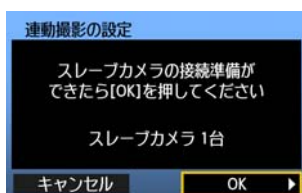
6 暗号化キーを設定する

- 5文字の暗号化キー（WEPキー）を設定し、〈MENU〉ボタンを押します。
- パソコンからマスターカメラに接続するときに、ここで設定した暗号化キーをパソコンに設定します。



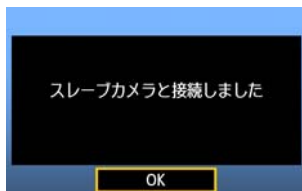
7 スレーブカメラの設定を進める

- ➔ スレーブカメラで [OK] を選びます。



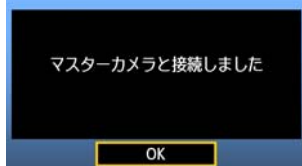
8 スレーブカメラの台数を確認する

- ➔ マスターカメラの液晶モニターに、検出したスレーブカメラの台数が表示されます。



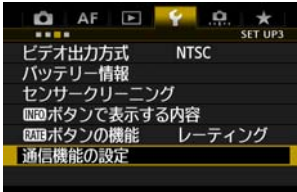
9 接続する

- マスターカメラと、すべてのスレーブカメラで [OK] を選びます。
- ➔ 接続確認画面が表示されます。
- 設定した内容はカメラに保存されます。WFT-E7には保存されません。



カメラの設定内容を確認しておく

マスターカメラとスレーブカメラの、LANに関する設定内容を確認します。この設定内容を把握していないとパソコンからカメラに接続できません。



1 マスターカメラの【通信機能の設定】を選ぶ



2 【ネットワークの設定】を選ぶ




3 【設定】を選ぶ



4 【設定内容確認】を選ぶ
→ 設定内容が表示されます。



5 設定内容を確認する

- 〈〉を回してページを切り換えます。
- IPアドレスとSSIDを書きとめておきます。

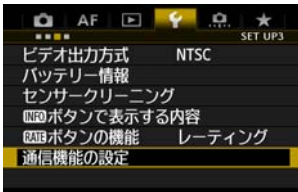


6 スレーブカメラの設定内容を確認する

- マスターカメラと同じ手順でスレーブカメラの設定内容を確認します。
- 全スレーブカメラのIPアドレスを書きとめておきます。IPアドレスは、カメラごとに異なります。
- SSIDはマスターカメラと同じです。

WFTサーバーの通信設定を行う

パソコンからカメラのWFTサーバーに接続するための、ログオン名とパスワードを設定します。ログオン名とパスワードはカメラごとに設定できますが、すべてのカメラで同じ設定にしているともかまいません。



1 マスターカメラの [通信機能の設定] を選ぶ



2 [ネットワークの設定] を選ぶ



3 [設定] を選ぶ

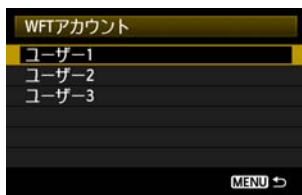


4 [WFTserver の設定] を選ぶ



5 [WFTアカウント] を選ぶ

- 通常、[ポート番号] の変更は必要ありません。



6 ユーザー番号を選ぶ

- WFTサーバーでは、カメラ1台に対し、パソコン3台が接続できます。複数のパソコンがWFT-E7に接続するときは、重複しないユーザー番号を選びます。



7 [ログオン名] と [パスワード] を設定する

- [ログオン名] と [パスワード] を選ぶと、下記の入力画面が表示されます。
- 入力画面の操作は、「仮想キーボードの操作方法について」(p.29)を参照してください。



パソコンに設定するIPアドレスについて

カメラに設定されるIPアドレスは、例えば192.168.1.1～192.168.1.11というように、末端に1～11の番号が割り当てられます。

そのため、パソコンに設定するIPアドレスは、192.168.1.12というように、末端に12以上の番号を割り当ててください。

パソコンとカメラを接続する

パソコンに内蔵されている無線LAN機器の検索（サーチ）機能を使用して、パソコンとカメラを接続します。無線LAN機器の検索（サーチ）機能につきましては、パソコンの使用説明書などを参照してください。

1 パソコンでカメラを検索（サーチ）する

- パソコンに内蔵されている無線LAN機器の検索（サーチ）機能を使用します。

2 カメラに接続する

- 78ページの手順5、6で書きとめたSSIDと同じIDの機器を選択します。
 - 暗号化キー（WEPキー）の入力を求められますので、76ページの手順6で設定した暗号化キーを入力します。
- パソコンとカメラの接続が完了します。

WFTサーバーを表示する

1 パソコンのWebブラウザを起動する

- インターネットエクスペローラーなどのWebブラウザを起動します。

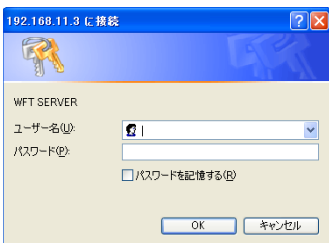


2 接続するカメラを選ぶ

- 78ページの手順5、6で書きとめたIPアドレスを入力します。
- 入力したIPアドレスが設定されているカメラに接続します。
- 接続するカメラを変更したいときは、ここでIPアドレスを変更します。

3 [ログオン名] と [パスワード] を入力する

- 80ページで設定した [ログオン名] と [パスワード] を入力します。[OK] を押すとWFTサーバーの画面が表示されます。



4 言語を選択する

- 画面下側の言語を選択します。
- WebブラウザがJavaScript対応のときは、左側の画面が表示されます。JavaScript非対応のときは、メッセージ画面が表示されます。JavaScriptを使用しない選択をすると、右側の、機能が限定された画面が表示されます。



カメラ内の画像を閲覧する

- 57ページの「画像を閲覧する」を参照してください。
- カメラのメモリーカードに入っている画像の閲覧や取り込みを行うことができます。マスターカメラやスレーブカメラのIPアドレスをWebブラウザに入力することで、接続先のカメラを変更することができます。

リモート撮影する

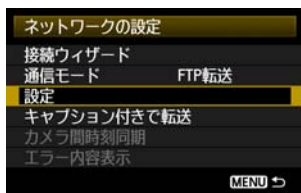
- 59ページの「リモート撮影する [詳細撮影]」を参照してください。62、63ページのリモート撮影も行うことができます。
- マスターカメラやスレーブカメラのIPアドレスをWebブラウザに入力することで、接続先のカメラを変更することができます。スレーブカメラに接続してピント合わせや撮影機能の設定を行い、最後にマスターカメラに撮影して連動撮影するというような使い方ができます。
- 連動撮影するときは、マスターカメラに接続してください。スレーブカメラに接続した状態では、スレーブカメラだけが撮影され、連動撮影にはなりません。

7

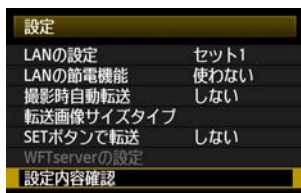
設定内容の確認／ 変更／保存／読み込み

設定内容を確認する

ネットワークの設定内容を確認することができます。



1 【ネットワークの設定】で【設定】を選ぶ



2 【設定内容確認】を選ぶ
→ 設定内容が表示されます。

FTP転送・有線LANの設定例

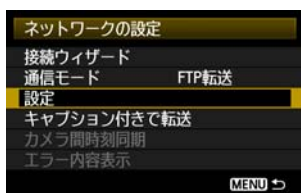


FTP転送・無線LANの設定例

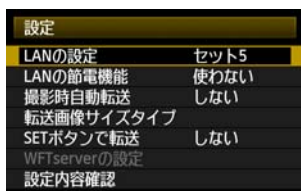


設定内容を変更する

接続ウィザードで設定した内容を変更することができます。また、接続ウィザードでは設定できないIPセキュリティ（IPsec）の設定や、FTPサーバーに同名のファイルが転送されたときなどの設定を行うことができます。（p.86）



1 【ネットワークの設定】で【設定】を選ぶ



2 【LANの設定】を選ぶ



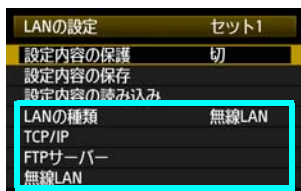
3 セット番号を選ぶ

- LANの設定を保存したセット番号を選びます。



4 【設定変更】を選ぶ

- 【セット名変更】を選ぶと、セット名の入力と変更を行うことができます。



5 変更する項目を選ぶ

- 【LANの種類】、【TCP/IP】、【FTPサーバー】、【無線LAN】の中から該当する項目を選び、内容を変更します。

IPsecについて

〔TCP/IP〕の〔セキュリティ〕で設定します。

インターネットで暗号化通信を行なうための規格で、無線／有線LAN共に有効なセキュリティ機能です。この機能を使うためには、パソコンのネットワーク設定でIPsec機能を有効にする必要があります。本機のIPsecは、トランスポートモードのみのサポートで、暗号方式は「3DES」または「AES」、認証方式は「SHA1」を使用しています。なお、設定画面の〔接続先のアドレス〕には、接続するパソコンのIPアドレスを設定してください。

転送先フォルダの階層について

〔FTPサーバー〕の〔転送先フォルダの階層〕で設定します。

〔カメラ〕を選択すると、転送先のルートフォルダ内に、カメラと同じ「A/DCIM/100EOS**」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。なお、〔転送先フォルダ〕の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に「A/DCIM/100EOS**」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。

〔初期設定〕を選択すると、転送先のルートフォルダを開いたところに画像を保存します。なお、〔転送先フォルダ〕の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に画像を保存します。

同名ファイルの上書きについて

〔FTPサーバー〕の〔同名ファイルの上書き〕で設定します。

同名ファイルの上書きをしない設定にしている場合

FTPサーバーの保存先フォルダに同名ファイルが存在する場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きの数字（例：IMG_0003_1.JPG）が付けられて保存されます。

転送失敗画像を再転送する場合

同名ファイルの上書きをする設定で、転送失敗画像を再転送すると、上書き保存されない場合があります。この場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きのアルファベットと数字（例：IMG_0003_a1.JPG）が付けられて保存されます。

パッシブモードについて

〔FTPサーバー〕の〔パッシブモード〕で設定します。

ネットワーク環境の中にファイアウォールが設置されているときに設定します。「エラー 41：FTPサーバーに接続できません」という状態のときに、パッシブモードを〔使う〕設定にすると、FTPサーバーに接続できることがあります。

設定内容が変更できないようにする

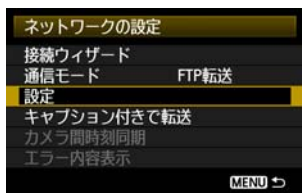
LANの設定	セット1
設定内容の保護	入

LANの設定内容を不用意に変更されたくないときは、〔設定内容の保護〕を〔入〕に設定します。

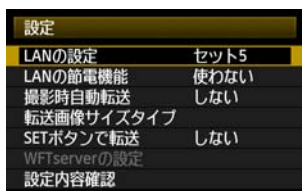
設定内容の保存と読み込み

ネットワークの設定をメモリーカードに保存して、ほかのカメラに適用することができます。

設定内容を保存する



1 [ネットワークの設定] で [設定] を選ぶ



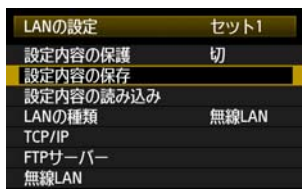
2 [LANの設定] を選ぶ



3 セット番号を選ぶ
● LANの設定を保存したセット番号を選びます。



4 [設定変更] を選ぶ



5 [設定内容の保存] を選ぶ



6

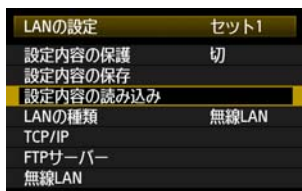
【保存】を選ぶ

- メモリーカードに設定内容が保存されます。
- 設定内容のファイル「WFTNPF*.NIF」は、メモリーカードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存されます。
- ファイル名は、WFTNPF01～99.NIFまでカメラが自動的に設定します。[ファイル名を変更] を選ぶと、ファイル名を任意に設定することができます。

設定内容を読み込む

メモリーカードに保存されている設定内容を読み込みます。ソフトウェアで作成した通信設定用ファイルを読み込むときにもこの操作を行います。

設定内容は、メモリーカードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存しておいてください。



1

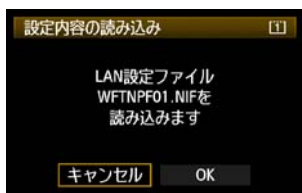
【設定内容の読み込み】を選ぶ



2

設定ファイルを選ぶ

- 使用するネットワーク環境に合った設定ファイルを選びます。



3

設定ファイルを読み込む

- 選択しているセット番号に、設定ファイルの内容が読み込まれます。

8

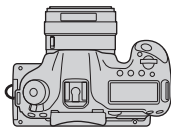
カメラ間時刻同期

マスターカメラの時刻を、最大10台までのスレーブカメラに設定することができます。無線LAN、有線LANのどちらでも行うことができます。なお、時刻同期を行っても、マスターカメラとスレーブカメラの時刻誤差が最大±0.05秒生じます。

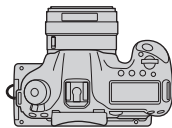
時刻同期の準備

無線LAN

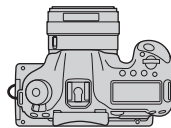
WFT-E7を装着したカメラを複数台用意しておきます。



マスターカメラ



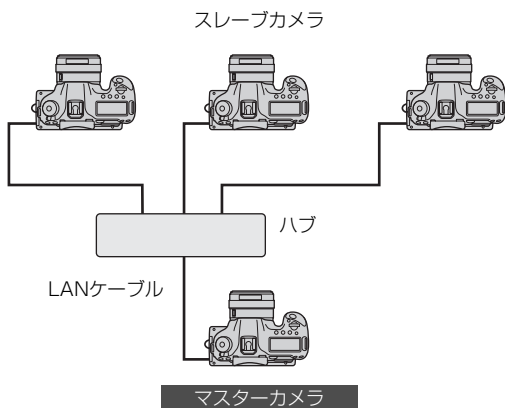
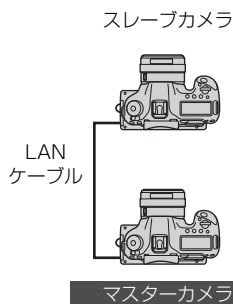
スレーブカメラ



スレーブカメラ

有線LAN

WFT-E7を装着したカメラをLANケーブルで接続します。スレーブが複数のときは、ハブを介してLANケーブルで接続します。



時刻を同期させる

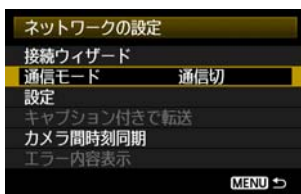
手順1～5は、マスターカメラとスレブカメラ共通の操作です。



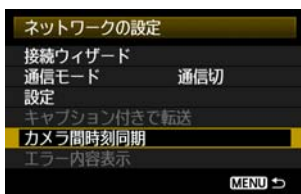
1 メニューの【通信機能の設定】を選ぶ



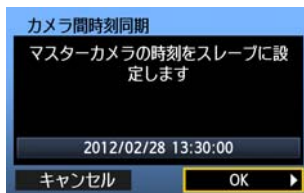
2 【ネットワークの設定】を選ぶ



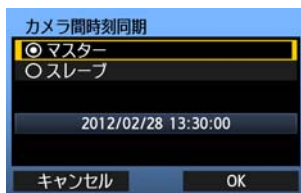
3 【通信モード】を【通信切】にする
● 【通信モード】を【通信切】に設定すると、【カメラ間時刻同期】が選択できるようになります。



4 【カメラ間時刻同期】を選ぶ
→ 表示される下記の画面で【OK】を選びます。

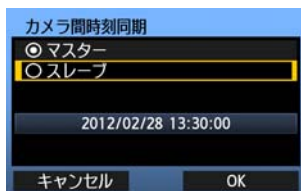


5 【LANの種類】を選ぶ
● 【無線LAN】か【有線LAN】を選んで【OK】を選びます。



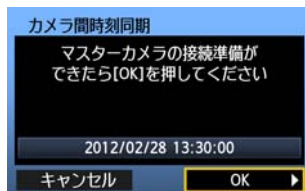
6 マスターカメラを準備する

- マスターカメラに、前ページの手順 1～5 を設定し、[マスター] を選びます。
→ 表示される画面で待機し、次の手順7でスレーブカメラの準備を行います。

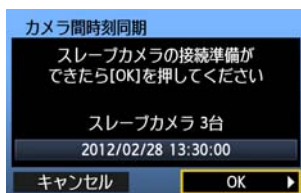


7 スレーブカメラを準備する

- スレーブカメラに、前ページの手順 1～5 を設定し、[スレーブ] を選びます。
→ 表示される下記の画面で [OK] を選びます。

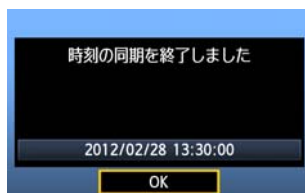


- 複数のスレーブカメラに時刻を設定するときは、すべてのスレーブカメラに対してこの操作を行ってください。手順8に示すマスターカメラの画面に、スレーブカメラの台数が表示されます。



8 マスターカメラで [OK] を選ぶ

- スレーブカメラの台数を確認し、[OK] を選びます。
→ 時刻の同期が行われます。



- [OK] を選ぶと [ネットワークの設定] 画面に戻ります。

9

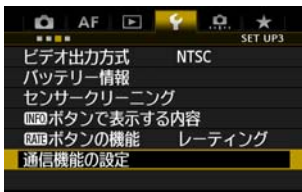
Bluetooth 対応の GPS 機器を使う

Bluetooth機能を備えたGPS機器（市販品）から「緯度、経度、標高、日付時刻」などの情報を取得して、画像情報として付加することができます。付加された情報は、カメラで確認できるだけでなく、GPS対応の市販地図ソフトで開いて撮影場所を確認することができます。

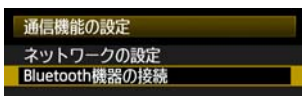
対象となる具体的なGPS機器につきましては、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書を参照するか、そのメーカーにお問い合わせください。

GPS機器をBluetoothで接続する



1 メニューの「通信機能の設定」を選ぶ



2 [Bluetooth機器の接続] を選ぶ

- [通信機能] を [使う] に設定すると、[Bluetooth機器の接続] が選択できるようになります。
- 表示される下記の画面で <SET> を押します。



3 GPS機器を選ぶ

- 近くで稼働している Bluetooth® 機器の一覧が表示されます。
- <左向き矢印> を回してGPS機器を選び、<SET> を押します。
- [OK] を選び <SET> を押します。
- GPS機器にBluetooth®のパスキーを設定しているときは、パスキーの入力画面が表示されますので、パスキーを入力してください。
- GPS機器との接続を開始します。
- GPS機器の接続には、数分かかることがあります。

接続が完了するまで撮影やメニュー表示、画像再生などのカメラ操作はできません。



4 接続完了画面で [OK] を選ぶ

- GPSの接続状態が、[接続中] に変わります。この状態で〈E7〉を押すと、GPS機器の切断を行うことができます。



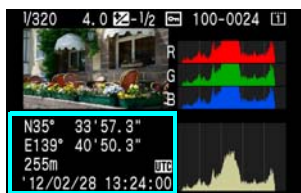
- 接続中は、WFT-E7の表示パネルに〈Bluetooth〉、カメラの表示パネルに〈GPS〉が表示されます。

5 GPS機器を確認する

- GPS機器が測位できていることを確認します。

6 撮影する

- カメラの表示パネルに、〈GPS〉が点灯していることを確認して撮影します。
- 〈GPS〉が点滅しているときに撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されません。



上から順に緯度、経度、標高、協定世界時

7 GPSデータを確認する

- 画像を1枚表示で再生します。
- 〈INFO.〉ボタンを押してGPSデータの撮影情報画面を表示します。

⚠ カメラの電源を入れ直したときや、オートパワーオフから復帰したときなどは、〈GPS〉が点灯するまで撮影しないでください。点滅中に撮影すると、正しいGPSデータが画像に付加されない場合があります。

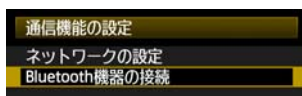
📄 表示される日付時刻は、GPS機器が取得した協定世界時（UTC：Coordinated Universal Time）で、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。なお、GPS機器によっては、設定した使用地域の日付時刻が表示されます。

Bluetooth接続を解除する

カメラの電源スイッチを切っても、GPS機器とのBluetooth接続状態は解除されません。接続状態を解除するときは、以下の手順で行ってください。



1 メニューの「通信機能の設定」を選ぶ



2 [Bluetooth機器の接続] を選ぶ
→ 表示される下記の画面で (SET) を押します。



3 [OK] を選ぶ
→ Bluetooth接続が解除されます。



- [OK] を選ぶと [Bluetooth機器の接続] 画面に戻ります。

10

トラブルシューティング



一部のパソコンとの組み合わせにおいて、アドホック接続での転送速度が極端に遅くなる場合があります。詳しくは、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

エラー表示の対応

カメラの液晶モニターにWFT-E7のエラーが表示されたときは、この章の対応例を参考に、エラーの原因を取り除いてください。エラー発生時はWFT-E7の〈LAN〉ランプが点滅し、表示パネルにエラー番号が表示されます。なお、エラー内容は、メニューの[WFTの設定] → [エラー内容表示] でも確認できます。

下記のエラー番号をクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (p.99)	12 (p.99)			
21 (p.99)	22 (p.100)	23 (p.100)	24 (p.101)	25 (p.102)
26 (p.102)				
41 (p.103)	42 (p.104)	43 (p.104)	44 (p.104)	45 (p.105)
46 (p.105)	47 (p.106)			
51 (p.106)	52 (p.106)	53 (p.106)	54 (p.106)	
61 (p.107)	62 (p.107)	63 (p.108)	64 (p.108)	65 (p.108)
66 (p.109)	67 (p.109)	68 (p.109)	69 (p.109)	
71 (p.110)	72 (p.110)	73 (p.110)		
81 (p.110)				
91 (p.110)				

以下のエラーが表示されたときは



WFT-E7の表示パネルに「ERROR 01」が表示されたときは、インターフェースケーブルをカメラとWFT-E7にしっかりと接続しなおしてください。

* このエラーは、カメラの液晶モニターには表示されません。

* このエラーは、WFT-E7に対応していないカメラに接続したときにも表示されます。

[再転送待機中...] が表示されたときは



FTP転送で撮影後の画像転送に失敗すると、左図の画面が表示されます。また、WFT-E7の表示パネルにエラー番号が表示され、〈LAN〉ランプが赤色に点滅します。エラー番号を確認し、エラーの原因を取り除いてください。

エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。

なお、転送をキャンセルしたり、カメラの電源を切った時は、自動再転送されません。40ページを参照して転送してください。

11：接続先が見つかりません

- ペアリングソフトは起動していますか？
 - ➔ ペアリングソフトを起動させて、再度接続操作を行ってください (p.48)。
- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - ➔ 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E7に設定してください (p.24)。

12：接続先が見つかりません

- 接続先のパソコンと無線LAN端末の電源は入っていますか？
 - ➔ 接続先のパソコンと無線LAN端末の電源を入れてください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7の設定がネットワーク [自動設定]、またはIPアドレス [自動取得] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - ➔ DHCPサーバーを使用していない場合は、WFT-E7をネットワーク [手動設定]、またはIPアドレス [手動設定] にして設定を行ってください (p.27)。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
 - ➔ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - ➔ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
 - ➔ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。



エラー 20番台の対応について

エラー 21～26が表示された場合は、以下の確認も行ってください。

WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？

➔ 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E7に設定してください (p.24)。

22：DNSサーバーから応答がありません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7の設定がDNSアドレス [自動取得]、または [手動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - ➔ DNSサーバーを使用していない場合は、WFT-E7をDNSアドレス [使わない] の設定にしてください (p.27)。
- WFT-E7に設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - ➔ 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをWFT-E7に設定してください (p.27、112)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - ➔ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - ➔ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください (p.27、112)。
 - ➔ WFT-E7を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：IPアドレスが重複しています

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7と同じネットワークに接続している機器が、WFT-E7と同じIPアドレスを使用していないですか？
 - ➔ WFT-E7のIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - ➔ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、WFT-E7がIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動取得] の設定にしてください (p.27)。

24：プロキシサーバーから応答がありません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7の設定がプロキシサーバー [使う] の設定になっています。この設定で間違いありませんか？
 - ➔ プロキシサーバーを使用していない場合は、プロキシサーバー [使わない] の設定にしてください (p.32)。
- WFT-E7に設定しているプロキシサーバーの [アドレスの設定] と [ポート番号] は、プロキシサーバーと同じ設定になっていますか？
 - ➔ プロキシサーバーと同じアドレス、ポート番号をWFT-E7に設定してください (p.32)。
- WFT-E7の [プロキシサーバー] の設定で、[サーバー名] だけを設定していませんか？
 - ➔ WFT-E7にプロキシサーバーの [アドレス] が設定されていないときは、DNSサーバーのアドレスも一緒に設定してください (p.27)。また、使用するプロキシサーバーのサーバー名とポート番号が、間違いなく設定されているか確認してください (p.32)。

プロキシサーバーの確認内容

- プロキシサーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ プロキシサーバーの電源を入れてください。
- プロキシサーバーは正常に機能していますか？
 - ➔ プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレス、またはサーバー名とポート番号を聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください。
 - ➔ WFT-E7を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

25：ほかの端末が、同じIPアドレスを設定しました

- WFT-E7と同じネットワークに接続している機器が、WFT-E7と同じIPアドレスを使用していませんか？
- ➔ このエラーは、WFT-E7がネットワークに接続している状態で、ほかの機器がWFT-E7と同じIPアドレスを設定してネットワークに接続してきたときに発生します。WFT-E7のIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。

26：DHCPサーバーから応答がありません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7の設定がネットワーク [自動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
- ➔ DHCPサーバーを使用していない場合は、WFT-E7の設定をネットワーク [手動設定] にしてください (p.27)。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
- ➔ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
- ➔ DHCPサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
- ➔ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
- ➔ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
- ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください (p.27)。
- ➔ WFT-E7を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

41：FTPサーバーに接続できません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7に設定しているFTPサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - ➔ FTPサーバーと同じIPアドレスをWFT-E7に設定してください (p.32)。
- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - ➔ 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E7に設定してください (p.24)。
- WFT-E7に設定しているFTPサーバー【ポート番号設定】は、FTPサーバーで設定しているポート番号と合っていますか？
 - ➔ ポート番号は通常 21 で、WFT-E7、FTP サーバーとも同じポート番号を設定します。FTPサーバーのポート番号をWFT-E7に設定してください (p.32)。
- WFT-E7で行っているFTPサーバーの設定で、【サーバー名】だけを設定している場合、DNSサーバーの設定も行っていますか？
 - ➔ WFT-E7にFTPサーバーの【アドレス】が設定されていないときは、DNSサーバーを使用する設定にして、DNSサーバーのアドレスをWFT-E7に設定してください (p.27)。また、使用するFTPサーバーのサーバー名が、間違いなく設定されているか確認してください (p.32)。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーは正常に機能していますか？
 - ➔ パソコンをFTPサーバーとして機能するよう設定してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください。
- FTPサーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
- FTPサーバーに設定しているIPアドレスは、WFT-E7に設定しているFTPサーバーの【アドレス】と合っていますか？
 - ➔ FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、WFT-E7に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にしてください (p.32)。
- セキュリティソフトウェアのファイアウォールを有効にしていますか？
 - ➔ セキュリティソフトウェアによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
 - ➔ WFT-E7の設定で【パッシブモード】を【使う】にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (p.86)。

- ブロードバンドルーターを介してFTPサーバーに接続していませんか？
 - ➔ ブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
 - ➔ WFT-E7の設定で [パッシブモード] を [使う] にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (p.86)。
- Windows XP Service Pack 2以上をお使いの場合、[Windowsファイアウォール] でFTPサーバーに接続できない設定になっていませんか？
 - ➔ Windowsファイアウォールを、FTPサーバーに接続できる設定にしてください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をWFT-E7に設定してください (p.27)。
 - ➔ WFT-E7を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

42：FTPサーバーから接続を拒否されました

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっていませんか？
 - ➔ FTPサーバーの設定を変更して、WFT-E7に設定しているTCP/IPの [IPアドレス] で接続できるようにしてください。

43：FTPサーバーに接続できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超過して接続していませんか？
 - ➔ FTPサーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やしてください。

44：FTPサーバーから切断できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

- FTPサーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかないときに表示されるエラーです。
 - ➔ FTPサーバーとカメラの電源を入れなおしてください。

45：FTPサーバーにログオンできません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7に設定している [ログオン名] は正しいですか？
 - ➔ FTP サーバーにログオンするログオン名を確認してください。また、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン名をWFT-E7に設定してください (p.33)。
- WFT-E7に設定している [ログオン・パスワード] は正しいですか？
 - ➔ FTP サーバーにログオン・パスワードが設定されているときは、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン・パスワードをWFT-E7に設定してください (p.33)。

FTPサーバーの確認内容

- FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
 - ➔ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーで転送先に指定されているフォルダの名称は、すべてASCII文字 (p.29) で構成されていますか？
 - ➔ フォルダ名をASCII文字で構成してください。

46：データセッションに対し、FTPサーバーからのリプライコードがエラーを示しています

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが接続を切断しました。
 - ➔ FTPサーバーを再起動してください。
- FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
 - ➔ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーの保存先フォルダにアクセス権を設定していませんか？
 - ➔ WFT-E7から転送された画像が保存できるよう、FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定してください。
- サーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
- FTPサーバーのハードディスクがいっぱいになっていませんか？
 - ➔ ハードディスクの空き容量を増やしてください。

47：FTPサーバーから、画像ファイルの転送完了通知を取得できませんでした

- FTPサーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかったときに表示されるエラーです。
- ➔ FTPサーバーとカメラの電源を入れなおし、画像を再度転送してください。

51：Bluetooth機器との接続が切れました

- BluetoothユニットとGPS機器が離れすぎていませんか？
➔ GPS機器をBluetoothユニットに近付けてください。
- BluetoothユニットとGPS機器の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
➔ GPS機器をBluetoothユニットが見える位置に移動させてください。
- 何らかの理由で、BluetoothユニットとGPS機器の接続が切れ、再接続できない状態になっています。
➔ Bluetoothと同じ2.4GHz帯の電波（または電磁波）を使用する無線LAN機器やコードレス電話機／マイク、電子レンジなどが近くで使用されていると、接続が切れやすくなります。また、雨天や高湿度の状況でも接続が切れやすくなります。
- GPS機器の電源が切れていませんか？
➔ GPS機器の電源を入れてください。

52：Bluetooth機器が見つかりません

- GPS機器がBluetoothで接続できる状態になっていますか？
➔ GPS機器の電源を入れて、Bluetoothで接続できる状態にしてください。
- BluetoothユニットとGPS機器が離れすぎていませんか？
➔ GPS機器をBluetoothユニットに近付けてください。
- GPS機器の電源が切れていませんか？
➔ GPS機器の電源を入れてください。

53：Bluetoothのパスキーが違います

- BluetoothユニットとGPS機器で、同じパスキーを設定していますか？
➔ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいパスキーをGPS機器とBluetoothユニットに設定してください。

54：Bluetoothのサービスがありません

- GPS機器がSPP（Serial Port）プロファイルに対応していません。
- ➔ GPS機器がSPP（Serial Port）プロファイルに対応しているか確認してください。

61：同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- 無線LAN端末のアンテナとWFT-E7の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
- ➔ 無線 LAN 端末のアンテナを、WFT-E7 からよく見える場所に移動させてください (p.111)。

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7に無線LAN端末と同じSSIDを設定していますか？
- ➔ 無線LAN端末のSSIDを確認して、同じSSIDをWFT-E7に設定してください (p.23)。

無線LAN端末の確認内容

- 無線LAN端末の電源は入っていますか？
- ➔ 無線LAN端末の電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E7のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？
- ➔ 使用しているWFT-E7のMACアドレス (p.84) を無線LAN端末に登録してください。

62：無線LAN端末からの応答がありません

WFT-E7の確認内容

- WFT-E7が、インフラストラクチャーで通信する設定になっていませんか？
- ➔ WFT-E7を、アドホックで通信する設定にしてください。

無線LAN端末の確認内容

- アドホックで通信するための無線LAN端末が近くにありますか？
- ➔ アドホックに設定した無線LAN端末を、WFT-E7の近くに用意してください。

63：無線LANの認証に失敗しました

- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証方式を設定していますか？
 - ➔ WFT-E7で設定できる認証方式は、[オープン]、[共有キー]、[WPA-PSK]、[WPA2-PSK] です (p.23)。
 - ➔ AirMacでインフラストラクチャーを行うときは、[オープン] では接続できません。WFT-E7に [共有キー] を設定してください (p.23)。
- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - ➔ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E7と無線LAN端末に設定してください (p.24)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E7のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？
 - ➔ 使用しているWFT-E7のMACアドレス (p.84) を無線LAN端末に登録してください。

64：無線LAN端末に接続できません

- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - ➔ WFT-E7で設定できる暗号化方式は、[WEP]、[TKIP]、[AES] です (p.23)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E7のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？
 - ➔ 使用しているWFT-E7のMACアドレス (p.84) を無線LAN端末に登録してください。

65：無線LANの接続が切れました

- 無線LAN端末のアンテナとWFT-E7の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - ➔ 無線 LAN 端末のアンテナを、WFT-E7 からよく見える場所に移動させてください (p.111)。
- 何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。
 - ➔ 無線LAN端末にほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合 (IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯))、雨天や高湿度などの影響が考えられます (p.111)。

66：無線LANの暗号キーが違います

- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
- ➔ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをWFT-E7と無線LAN端末に設定してください (p.24)。
なお、暗号化の認証方式が「オープン」の場合は、「エラー 41：FTPサーバーに接続できません」が表示されます。

67：無線LANの暗号方式が違います

- WFT-E7と無線LAN端末で、同じ暗号化方式を設定していますか？
- ➔ WFT-E7で設定できる暗号化方式は、[WEP]、[TKIP]、[AES] です (p.23)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているWFT-E7のMACアドレスを無線LAN端末に登録していますか？
- ➔ 使用しているWFT-E7のMACアドレス (p.84) を無線LAN端末に登録してください。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- 無線LAN端末のWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンは、無線LAN端末で指示されている時間押しつづけましたか？
- ➔ WPSボタンを無線LAN端末の使用説明書で指示されている時間押しつづけてください。
- 無線LAN端末のすぐ近くで接続操作をしていますか？
- ➔ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかの無線LAN端末がWPS (Wi-Fi Protected Setup) のPBC方式 (プッシュボタン接続方式) で接続操作を行っています。
- ➔ しばらく待ってから接続操作を行うか、PIN 方式 (ピンコード接続方式) で接続操作を行ってください (p.26)。

71：スレーブカメラと接続できませんでした

- スレーブカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➔ 正しい手順でスレーブカメラを操作してください (p.70、71)。
- スレーブカメラとマスターカメラが離れすぎていませんか？
➔ スレーブカメラをマスターカメラに近付けてください。

72：マスターカメラと接続できませんでした

- マスターカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➔ 正しい手順でマスターカメラを操作してください (p.70、71)。
- マスターカメラとスレーブカメラが離れすぎていませんか？
➔ マスターカメラをスレーブカメラに近付けてください。

73：時刻の同期に失敗しました

- マスターカメラとスレーブカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➔ 正しい手順でマスターカメラとスレーブカメラを操作してください (p.91、92)。
- マスターカメラとスレーブカメラが離れすぎていませんか？
➔ マスターカメラとスレーブカメラを近付けてください。

81：有線LANの接続が切れました

- LANケーブルはしっかり接続されていますか？
➔ カメラからサーバーにかけてのLANケーブルを接続しなおしてください。また、ケーブルが断線している可能性もありますので、別のケーブルを接続してみてください。
- ハブやルーターの電源は入っていますか？
➔ ハブやルーターの電源を入れてください。
- サーバーの電源は入っていますか？
➔ サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

91：その他のエラー

- エラー 11～81以外の異常が発生しました。
➔ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

無線LANでの注意事項

無線LANで使用しているときに「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

無線LAN端末、またはアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、撮影している部屋に設置してください。
- WFT-E7よりも高い場所に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。
- カメラにできるだけ近付けて設置してください。特に、雨天屋外で使用すると、電波が雨に吸収されて接続が途切れる場合があります。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響で無線LANの通信速度が遅くなるときは、有線LANにすると問題を解消することができます。

- WFT-E7のIEEE.802.11b/g/nとBluetoothは、2.4GHz帯の電波を使用して無線LANを行っています。そのため、同じ周波数帯を使用する電子レンジやコードレス電話機／マイクなどを使うと無線LANの通信速度が遅くなります。
- WFT-E7と同じ周波数帯を使用する無線LAN機器が近くで稼動していると、無線LANの通信速度が遅くなります。

WFT-E7を複数使うときの注意

- 1つの無線LAN端末に複数のWFT-E7が接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つの無線LAN端末に複数のWFT-E7が接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) の無線LAN端末が複数あるときは、電波干渉を少なくするために、無線LANのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7/12」、「3/8/13」というように4チャンネル分、間を開けてください。
IEEE 802.11a/n (5GHz帯) が使用できるときは、IEEE 802.11a/n (5GHz帯) に切り換えて、異なるチャンネルを設定してください。

セキュリティについて

- 無線LANの電波は、簡単に傍受できます。そのため、無線LAN端末の設定で電波の暗号化を行うことをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

Windows

Windowsの [スタート] ボタン → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を選びます。ipconfig/allと入力して、〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

なお、27ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

Macintosh

Mac OS Xの [ターミナル] を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。[en0] 項目 [inet] の ***.*.*.*.* がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

なお、27ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

*[ターミナル] については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

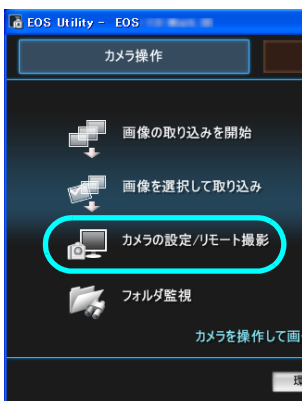
11

資料

キャプションの作成と登録

「キャプション付きで転送する」(p.38)のページで説明した、キャプションを作成してカメラに設定します。キャプションの作成と登録は、EOS Utilityがインストールされたパソコンを使用して行います。

47ページからの「EOS Utilityでリモート撮影」を参照して、有線LANまたは無線LANでEOS Utilityが使えるようにしておいてください。EOS Utilityの起動方法は、カメラに付属のソフトウェア使用説明書(PDF)を参照してください。なお、WFT-E7を装着していないカメラでは、キャプションの作成はできません。



1 EOS Utilityを起動して【カメラ設定/リモート撮影】を選ぶ

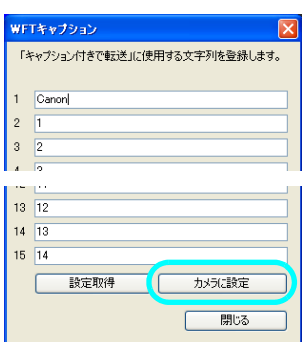
→ カメラ設定/リモート撮影画面が表示されます。



2 [T1] タブの【WFTキャプション】を選ぶ

→ キャプション作成画面が表示されます。

- [設定取得] を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。



3 キャプションを入力する

- ASCII (アスキー) 文字を31文字まで入力できます。

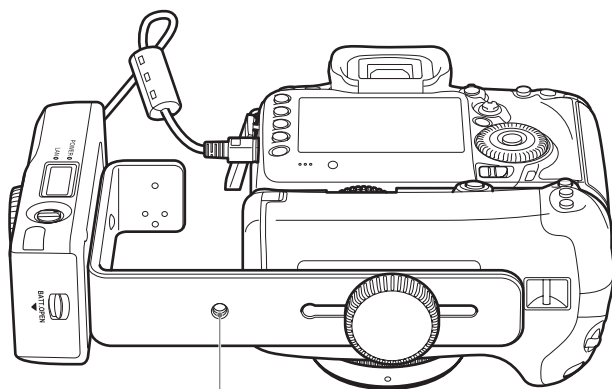
4 キャプションをカメラに設定する

- [カメラに設定] を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

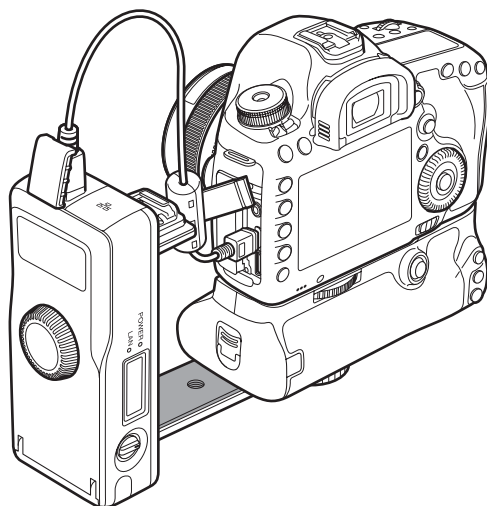
ブラケット（別売）を使う

別売のアクセサリブラケットAB-E1は、バッテリーグリップとWFT-E7を併用するときなどに使用します。

図のようにカメラとWFT-E7をブラケットに取り付けます。



三脚ねじ穴



主な仕様

■ 型式

型式.....有線LANとIEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n無線LAN対応・画像転送アクセサリ（IPsec対応）。Bluetooth機能（GPS機器接続用）内蔵

■ 無線LAN

準拠規格.....IEEE802.11a
IEEE802.11b
IEEE802.11g
IEEE802.11n

伝送方式.....DS-SS変調方式（IEEE802.11b）

OFDM変調方式（IEEE802.11g、IEEE802.11a、IEEE802.11n）

通信距離.....約150m

* 送受信アンテナ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合

* アクセスポイントに高性能大型アンテナを設置している場合

送信周波数（中心周波数）

タイプ	周波数	チャンネル
WFT-E7A	2412~2462MHz	1~11ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5745~5825MHz	149~165ch
WFT-E7B	2412~2472MHz	1~13ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
WFT-E7C	2412~2472MHz	1~13ch
	5745~5805MHz	149~161ch
WFT-E7D	2412~2462MHz	1~11ch
	5280~5320MHz	56~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
WFT-E7E	2412~2472MHz	1~13ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
	5745~5825MHz	149~165ch

接続方法.....インフラストラクチャーモード、アドホックモード

* Wi-Fi Protected Setup対応

セキュリティ.....認証方式：オープン、共有キー、WPA-PSK、WPA2-PSK
暗号化：WEP、TKIP、AES

■ 有線LAN

Ethernet.....10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T

■ LAN機能

FTP転送	撮影時自動転送 画像選択/転送 SETボタンで転送 キャプション付きで転送
EOS Utility.....	EOS Utilityのリモートコントロール機能を有線LAN、無線LANで実現
WFTサーバー	詳細撮影/簡易撮影/単純撮影 画像の閲覧/取り込み
メディアサーバー.....	DLNA対応
連動撮影	マスターカメラに連動して、10台のスレーブカメラが撮影可能 通信距離約100m（無線LANのみ）
カメラ間時刻同期.....	マスターカメラの時刻を10台のスレーブカメラに設定可能 マスターカメラとの設定誤差±約0.05秒

■ Bluetooth接続

準拠規格	Bluetooth v2.0+EDR
対応機器	Bluetooth対応GPS機器と無線接続が可能

■ 電源

使用電池	バッテリーパックLP-E6、1個使用
電池チェック	自動
転送可能枚数	約 [枚]

LAN	常温 (23℃)	低温 (0℃)
無線LAN	2400	2300
有線LAN	2200	2200

- * フル充電のLP-E6使用時。
- * CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準に準じた条件で、約5MBの画像を撮影時自動転送した場合。
- * 無線LANで連続して画像転送を行うと、転送可能枚数が少なくなります。

■ 大きさ・質量

大きさ	134.1（幅）×31.1（高さ）×62.2（奥行）mm
質量	約165g（本体のみ）

■ 動作環境

使用可能温度	0℃～+40℃
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

索引

英数字

1枚ずつ転送	37
ACアダプター	13
Bluetooth	93
DHCPサーバー	27
DLNA	65
DNSアドレス	27
DNSサーバー	32
EOS Utility	16, 20, 47, 51
ESS-ID	23
Ethernet用RJ-45端子	9
FTPサーバー	16, 31
FTP転送	20
GPS	93
GPS機器	16
IPsec	86
IPアドレス	27, 32
JPEG	35
LANケーブル	22
MACアドレス	48
MediaServ	21
PBC方式	25
PIN方式	26
RAW	35
RAW+JPEG	36
SETボタンで転送	37
SSID	23
TKIP	23
URL	56
UTC	95
Web	56
WEP	23
WFTserver	21
WFTサーバー	16, 53
WPA2-PSK	23
WPA-PSK	23
WPS	
(Wi-Fi Protected Setup)	25, 26

あ

アカウント	54
アドホック	23
暗号	23, 86
暗号キー	24
一括転送	40, 42, 44
インフラストラクチャー	23
ウィザード	19
エラー	98
エラー番号	10

オートパワーオフ	19
オープン	23

か

各部の名称	9
画像転送	16, 31
画像を閲覧	57
家庭用電源	13
カメラ間時刻同期	89
簡易撮影	62
キーの書式と長さ	24
キーボード	29
キャプション	38
協定世界時	95
共有キー	23
ケース	10
ゲートウェイ	27

さ

撮影後に転送	40
サブネットマスク	27
自動転送	34
詳細撮影	59
ステルス機能	25, 26
スレーブカメラ	70, 92
接続	19
設定内容	83
設定内容の保護	86

た

通信マーク	10
テレビ	65, 67
電波強度	10
電源スイッチ	9, 14
電源ランプ	9
転送可能枚数	12
転送先フォルダ	86
転送履歴	45
電池	11
電池チェック	12
動画	34, 58, 59
同名ファイル	86
トラブルシューティング	97

な

認証	23, 86
ネットワーク	17

は

パスキー.....	94
パスワード.....	54
パッシブモード.....	86
バッテリー.....	11
表示パネル.....	9, 10
ピンコード接続方式.....	26
フォトフレーム.....	65
フォルダ.....	33
フォルダ指定.....	33
プッシュボタン接続方式.....	25
ブラウザ.....	56
プロキシ.....	32
ペアリング.....	28, 48
ポート番号.....	32
保存先.....	33

ま

マスターカメラ.....	71, 92
まとめて転送.....	40
メディアサーバー.....	16, 65
メディアプレーヤー.....	65

や

有線 LAN.....	22
有線 LAN 接続.....	10

ら

リモート撮影.....	16, 47, 53, 59, 62, 63
ルーター.....	27
連動撮影.....	16, 21, 69
ログオン.....	33
ログオン名.....	54

わ

ワイファイ プロテクトッド セットアップ.....	25
------------------------------	----



キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理については、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、またはお客様相談窓口、修理受付窓口にお問い合わせください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2012年2月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、サービス窓口にお問い合わせください。